



の暗号化のベストプラクティスと機能 AWS のサービス

AWS 規範ガイド



AWS 規範ガイド: の暗号化のベストプラクティスと機能 AWS のサービス

Copyright © 2024 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標とトレードドレスは、Amazon 以外の製品またはサービスとの関連において、顧客に混乱を招いたり、Amazon の名誉または信用を毀損するような方法で使用することはできません。Amazon が所有していない他のすべての商標は、それぞれの所有者の所有物であり、Amazon と提携、接続、または後援されている場合とされていない場合があります。

Table of Contents

序章	1
対象者	1
AWS 暗号化サービスについて	3
暗号化のベストプラクティスの概略	4
データ分類	4
転送中のデータの暗号化	4
保管中のデータの暗号化	5
AWS のサービスの暗号化のベストプラクティス	7
CloudTrail	7
DynamoDB	8
Amazon EC2 および Amazon EBS	10
Amazon ECR	11
Amazon ECS	12
Amazon EFS	14
Amazon EKS	15
AWS Encryption SDK	17
AWS KMS	18
Lambda	21
Amazon RDS	21
Secrets Manager	23
Amazon S3	24
Amazon VPC	25
リソース	27
ドキュメント履歴	28
用語集	29
#	29
A	30
B	33
C	35
D	38
E	42
F	44
G	45
H	46

I	47
L	49
M	50
O	54
P	57
Q	59
R	60
S	62
T	66
U	67
V	68
W	68
Z	69
.....	lxxi

暗号化のベストプラクティスと AWS のサービスの機能

Kurt Kumar, Amazon Web Services (AWS)

2022 年 12 月 ([ドキュメント履歴](#))

現代のサイバーセキュリティの脅威には、権限のある人がネットワークにアクセスして企業データを盗むという、データ漏えいのリスクが含まれます。データは各組織に固有のビジネス資産です。これには、顧客情報、事業計画、設計文書、コードなどが含まれます。ビジネスを保護するということは、データを保護するということです。

ファイアウォールなどの対策は、データ侵害の発生を防ぐのに役立ちます。ただし、データ暗号化は、侵害が発生した後もビジネスデータを保護するのに役立ちます。データ暗号化によって、意図しない開示に対して防御を強化します。AWS クラウド 内の暗号化されたデータにアクセスするには、ユーザーは、キーを使用して復号化する権限と、データが保存されているサービスを使用する権限を必要とします。この両方の権限がないと、ユーザーはデータを復号化して表示することができません。

一般的に、暗号化できるデータには 2 種類あります。1 つは転送中のデータで、ネットワーク内 (ネットワークリソース間など) を活発に移動するデータのことです。もう 1 つは保管中のデータで、ストレージ内のデータなど、静止していて休眠中のデータのことです。例としては、ブロックストレージ、オブジェクトストレージ、データベース、アーカイブ、モノのインターネット (IoT) デバイスなどです。このガイドでは、両方のタイプのデータを暗号化する際の考慮事項とベストプラクティスについて説明します。また、多くの AWS のサービス で利用できる暗号化機能と制御についても説明します。これで暗号化に関する推奨事項を、AWS クラウド 環境にサービスレベルで実装できるようになります。

対象者

このガイドは、公共機関と民間企業の両方の、小規模、中規模、大規模の組織で使用できます。組織がデータ保護戦略の評価と実施の初期段階にあるか、または既存のセキュリティ管理の強化を目指しているかにかかわらず、このガイドで説明する推奨事項は次の対象者に最適です。

- 最高経営責任者 (CEO)、最高技術責任者 (CTO)、最高情報責任者 (CIO)、最高情報セキュリティ責任者 (CISO) など、企業の方針を策定する執行役員
- 技術担当副社長や取締役など、技術標準の設定を担当する技術責任者
- 以下の責任を負うビジネスステークホルダーとアプリケーションオーナー

- リスクに対する姿勢、データ分類、保護要件の評価
- 確立された組織基準の遵守状況の監視
- 法定および任意のコンプライアンス制度を含む、コンプライアンスポリシーの遵守状況の監視を担当するコンプライアンス、内部監査、ガバナンス担当者

AWS 暗号化サービスについて

暗号化アルゴリズムとは、プレーンテキストのメッセージを暗号化された暗号文に変換する数式または手順のことです。暗号化やその用語に初めて触れる場合は、まず「[About data encryption](#)」と「[Cryptography concepts](#)」を読んでから、このガイドを読むことをお勧めします。

AWS 暗号化サービスは、安全なオープンソースの暗号化アルゴリズムに依存しています。これらのアルゴリズムは、公的標準化団体や学術研究によって精査されています。一部の AWS ツールやサービスは特定のアルゴリズムの使用を強制します。他のサービスでは、複数のアルゴリズムとキーの長さから選択したり、推奨デフォルトを使用したりできます。

このセクションでは、AWS ツールとサービスがサポートするアルゴリズムについて説明します。このアルゴリズムは、キーの機能によって、対称型と非対称型の 2 つのカテゴリに分類されます。

- 対称暗号化では、同じキーを使用してデータを暗号化および復号化します。AWS のサービスは、広く使われている対称アルゴリズムである Advanced Encryption Standard (AES) と Triple Data Encryption Standard (3DES または TDES) をサポートしています。詳細については、「AWS cryptographic services and tools guide」の「[Symmetric algorithms](#)」を参照してください。
- 非対称暗号化では、暗号化用のパブリックキーと復号化用のプライベートキーから成る 1 組のキーを使用します。パブリックキーは復号化には使用されないため共有できますが、プライベートキーへのアクセスは厳しく制限する必要があります。AWS のサービスは通常、RSA と楕円曲線暗号 (ECC) の非対称アルゴリズムをサポートしています。詳細については、「AWS cryptographic services and tools guide」の「[Asymmetric algorithms](#)」を参照してください。

AWS 暗号化サービスは幅広い暗号セキュリティ標準に準拠しているため、政府や専門家の規制に準拠できます。AWS のサービスが準拠しているデータセキュリティ基準の詳細なリストについては、「[AWS コンプライアンスプログラム](#)」を参照してください。暗号化ツールとサービスの詳細については、「[AWS cryptographic services and tools](#)」を参照してください。

暗号化のベストプラクティスの概略

このセクションでは、AWS クラウド のデータを暗号化する際に適用する推奨事項について説明します。これらの暗号化のベストプラクティス全般は、特定の AWS のサービス に限ったものではありません。このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- [データ分類](#)
- [転送中のデータの暗号化](#)
- [保管中のデータの暗号化](#)

データ分類

データ分類とは、ネットワーク内のデータを重要度と機密性に基づいて識別、分類するプロセスのことです。データに適した保護および保持のコントロールを判断する際に役立つため、あらゆるサイバーセキュリティのリスク管理戦略において重要な要素です。[データ分類](#)は、AWS Well-Architected フレームワークのセキュリティの柱のコンポーネントです。カテゴリには、極秘データ、機密データ、非機密データ、公開データなどがありますが、分類階層とその名前は組織によって異なる場合があります。データ分類のプロセス、考慮事項、モデルの詳細については、「[Data classification](#)」(AWS ホワイトペーパー)を参照してください。

データを分類したら、各カテゴリに必要な保護レベルに基づいて、組織の暗号化戦略を作成することができます。例えば、極秘データには非対称暗号化を使用し、公開データには暗号化は必要ないと組織で判断する場合があります。暗号化戦略の設計の詳細については、「[Creating an enterprise encryption strategy for data at rest](#)」を参照してください。このガイドに記載されている技術的な考慮事項と推奨事項は保管中のデータに限られていますが、段階的なアプローチを使用して転送中のデータの暗号化戦略を作成することもできます。

転送中のデータの暗号化

AWS グローバルネットワーク上の AWS リージョン 間で送信されるすべてのデータは、AWS の安全な施設を離れる前に、物理層で自動的に暗号化されます。アベイラビリティゾーン間のトラフィックは、すべて暗号化されます。

AWS クラウド で転送中のデータを暗号化するときの一般的なベストプラクティスを次に示します。

- データ分類、組織の要件、該当する規制やコンプライアンス基準に基づいて、転送中のデータに関する組織の暗号化ポリシーを定義します。極秘データ、または機密データに分類される転送中の

データを暗号化することを強くお勧めします。ポリシーによっては、必要に応じて、非機密データや公開データなど、他のカテゴリの暗号化を指定する場合があります。

- 転送中のデータを暗号化する場合は、暗号化ポリシーで定義されている承認済みの暗号化アルゴリズム、ブロック暗号モード、キーの長さを使用することをお勧めします。
- 企業ネットワーク内の情報資産やシステムと、AWS クラウド インフラストラクチャ間のトラフィックを暗号化します。次のいずれかを使用して行います。
 - [AWS Site-to-Site VPN](#) 接続
 - IPSec で暗号化されたプライベート接続を提供する、AWS Site-to-Site VPN と [AWS Direct Connect](#) 接続の組み合わせ
 - MAC セキュリティ (MACsec) をサポートし、企業ネットワークから Amazon VPC の場所に向かうデータを暗号化する AWS Direct Connect 接続
- 最小特権の原則に基づいて、暗号化キーのアクセス制御ポリシーを特定します。最小特権とは、ユーザーに職務を遂行するために必要最小限のアクセス権を付与するという、セキュリティのベストプラクティスです。最小特権の適用について、詳しくは、「[IAM でのセキュリティベストプラクティス](#)」と「[IAM ポリシーのベストプラクティス](#)」を参照してください。

保管中のデータの暗号化

Amazon Simple Storage Service (Amazon S3)、Amazon Elastic File System (Amazon EFS) などの AWS データストレージサービスにはすべて、保管中のデータを暗号化するオプションが用意されています。暗号化は、256 ビットの Advanced Encryption Standard (AES-256) ブロック暗号、および [AWS Key Management Service \(AWS KMS\)](#) や [AWS CloudHSM](#) などの AWS 暗号化サービスを使用して実行されます。

データ分類、暗号化の必要性、end-to-end 暗号化を使用できない技術的制限などの要因に基づいて、クライアント側の暗号化またはサーバー側の暗号化を使用してデータを end-to-end 暗号化できます。

- クライアント側の暗号化とは、対象となるアプリケーションまたはサービスがデータを受信する前に、データをローカルで暗号化する行為のことです。AWS のサービスは暗号化されたデータを受け取るだけで、データの暗号化または復号化には関与しません。クライアント側の暗号化には、AWS KMS、[AWS Encryption SDK](#)、その他のサードパーティの暗号化ツールまたはサービスを使用する場合があります。
- サーバー側の暗号化とは、データの送信先でデータを暗号化することです。データを受信するアプリケーションまたはサービスが行います。サーバー側の暗号化には、ストレージブロック全体の暗

号化に AWS KMS を使用することがあります。また、Linux ファイルシステムをオペレーティングシステム (OS) レベルで暗号化する [LUKS](#) など、サードパーティ製の暗号化ツールやサービスを使用することもできます。

以下は、AWS クラウド に保管中のデータを暗号化するときの一般的なベストプラクティスです。

- データ分類、組織の要件、および該当する規制やコンプライアンス基準に基づいて、保管中のデータに関する組織の暗号化ポリシーを定義します。詳細については、「[Creating an enterprise encryption strategy for data at rest](#)」を参照してください。極秘データ、または機密データに分類される保管中のデータは暗号化することを強くお勧めします。ポリシーによっては、必要に応じて、非機密データや公開データなど、他のカテゴリの暗号化を指定する場合があります。
- 保管中のデータを暗号化する場合は、承認された暗号化アルゴリズム、ブロック暗号モード、キーの長さを使用することをお勧めします。
- 最小特権の原則に基づいて、暗号化キーのアクセス制御ポリシーを特定します。

AWS のサービスの暗号化のベストプラクティス

このセクションでは、特定の のベストプラクティスと推奨事項について説明します AWS のサービス。このセクションでは、次のサービスについて説明します。

- [AWS CloudTrail](#)
- [Amazon DynamoDB](#)
- [Amazon Elastic Compute Cloud \(Amazon EC2\) および Amazon Elastic Block Store \(Amazon EBS\)](#)
- [Amazon Elastic Container Registry \(Amazon ECR\)](#)
- [Amazon Elastic Container Service \(Amazon ECS\)](#)
- [Amazon Elastic File System \(Amazon EFS\)](#)
- [Amazon Elastic Kubernetes Service \(Amazon EKS\)](#)
- [AWS Encryption SDK](#)
- [AWS Key Management Service \(AWS KMS\)](#)
- [AWS Lambda](#)
- [Amazon Relational Database Service \(Amazon RDS\)](#)
- [AWS Secrets Manager](#)
- [Amazon Simple Storage Service \(Amazon S3\)](#)
- [Amazon Virtual Private Cloud \(Amazon VPC\)](#)

AWS CloudTrail

[AWS CloudTrail](#) は、AWS アカウントのガバナンス、コンプライアンス、および運用とリスクの監査を行えるように支援します。

このサービスでは、以下の暗号化のベストプラクティスを検討してください。

- CloudTrail ログは、カスタマー管理の を使用して暗号化する必要があります AWS KMS key。ログファイルを受け取る S3 バケットと同じリージョンにある KMS キーを選択します。詳細については、「[証跡を更新して KMS キーを使用する](#)」を参照してください。
- 追加のセキュリティレイヤーとして、証跡のログファイル検証を有効にします。これにより、CloudTrail 配信後にログファイルが変更、削除、または変更されていないかどうかを判断できます。手順については、「[のログファイルの整合性検証の有効化 CloudTrail](#)」を参照してください。

- インターフェイス VPC エンドポイントを使用して、CloudTrail がパブリックインターネットを経由せずに他の VPCs のリソースと通信できるようにします。詳細については、「[VPC エンドポイントでの AWS CloudTrail の使用](#)」を参照してください。
- KMS キーポリシーに `aws:SourceArn` 条件キーを追加して、特定の証跡に対してのみ KMS キー CloudTrail を使用するようにします。詳細については、「[の AWS KMS key ポリシーを設定する CloudTrail](#)」を参照してください。
- で AWS Config、ログファイルの暗号化を検証して適用する `cloud-trail-encryption-enabled` AWS マネージドルールを実装します。
- CloudTrail が Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS) トピックを介して通知を送信するように設定されている場合は、SNS トピックへの不正なアカウントアクセスを防ぐために、CloudTrail ポリシーステートメントに `aws:SourceArn` (またはオプションで `aws:SourceAccount`) 条件キーを追加します。詳細については、「[の Amazon SNS トピックポリシー CloudTrail](#)」を参照してください。
- を使用している場合は AWS Organizations、その組織のすべてのイベントをログ AWS アカウントに記録する組織の証跡を作成します。これには、組織内の管理アカウントおよびすべてのメンバーアカウントが含まれます。詳細については、「[組織の証跡の作成](#)」を参照してください。
- 企業データを保存する [すべてのに適用される AWS リージョン](#) 証跡を作成し、それらのリージョンでの AWS アカウント アクティビティを記録します。新しいリージョン AWS を起動すると、新しいリージョン CloudTrail を自動的に含め、そのリージョンのイベントをログに記録します。

Amazon DynamoDB

[Amazon DynamoDB](#) は、フルマネージド NoSQL データベースサービスです。高速かつ予測可能でスケーラブルなパフォーマンスを提供します。DynamoDB の保管時の暗号化では、データを堅牢なメディアに保存する際に、プライマリキー、ローカルおよびグローバルのセカンダリインデックス、ストリーム、グローバルテーブル、バックアップ、DynamoDB Accelerator (DAX) クラスターなどを暗号化テーブルで保護します。

データ分類の要件に従い、サーバー側またはクライアント側の暗号化を実装することで、データの機密性と整合性を維持できます。

サーバー側の暗号化では、新しいテーブルの作成時に AWS KMS keys を使用してテーブルを暗号化できます。AWS 所有キー、AWS マネージドキー、またはカスタマーマネージドキーを使用できます。キーにはカスタマーマネージドキーを使用することをお勧めします。これは、組織でキーを完全に制御できるためです。また、このキータイプを使用すると、テーブルレベルの暗号化

キー、DynamoDB テーブル、ローカルおよびグローバルのセカンダリインデックス、ストリームがすべて同じキーで暗号化されます。これらのキータイプの詳細については、[「カスタマーキーと AWS キー」](#) を参照してください。

Note

AWS 所有キー、AWS マネージドキー、カスタマーマネージドキーはいつでも切り替えることができます。

クライアント側の暗号化とデータの end-to-end 保護には、保管中と転送中の両方で、[Amazon DynamoDB 暗号化クライアント](#) を使用できます。DynamoDB Encryption Client は、項目の属性値の機密性を保護する暗号化に加えて、項目に署名します。こうすることで、属性の追加や削除、暗号化された値の別の値への置換など、項目全体への不正な変更を検出し、整合性の保護を提供します。

このサービスでは、以下の暗号化のベストプラクティスを検討してください。

- キーの無効化や削除のスケジュール設定の権限を、これらのタスクを実行する必要があるユーザーのみに制限してください。キーの状態を無効に設定するか、削除のスケジュールを設定すると、すべてのユーザーと DynamoDB サービスは、データの暗号化と復号化、およびテーブルに対する読み取り/書き込み操作を実行できなくなります。
- DynamoDB はデフォルトで HTTPS を使用して転送中のデータを暗号化しますが、追加のセキュリティ制御が推奨されます。以下のいずれかのオプションを使用できます。
 - AWS Site-to-Site VPN 暗号化に IPsec を使用する 接続。
 - AWS Direct Connect プライベート接続を確立するための 接続。
 - AWS Direct Connect IPsec で暗号化されたプライベート AWS Site-to-Site VPN 接続の接続との 接続。
- 仮想プライベートクラウド (VPC) 内からのみ DynamoDB にアクセスする必要がある場合は、VPC ゲートウェイエンドポイントを使用して、アクセスを VPC 内リソースのみに許可することができます。これにより、トラフィックがパブリックインターネットを経由することを防ぎます。
- VPC エンドポイントを使用している場合は、エンドポイントに関連付けられているエンドポイントポリシーと IAM ポリシーを、承認されたユーザー、リソース、サービスのみ限定してください。詳細については、「[IAM ポリシーを使用して DynamoDB エンドポイントへのアクセスを制御する](#)」と「[エンドポイントポリシーを使用してサービスへのアクセスを制御する](#)」を参照してください。

- 暗号化ポリシーに従って、暗号化が必要なデータに対し、列レベルのデータ暗号化をアプリケーションレベルで実装できます。
- クラスターの設定時に、キャッシュ内のデータ、構成データ、ログファイルなどの保管中のデータを暗号化するように DAX クラスターを構成します。既存のクラスターでは保存時の暗号化を有効にすることはできません。このサーバー側の暗号化は、基盤となるストレージを経由する不正アクセスからデータを保護するのに役立ちます。保管時の DAX 暗号化は、クラスターの暗号化に使用される単一サービスのデフォルトキー AWS KMS を管理するために、と自動的に統合されます。暗号化された DAX クラスターの作成時にサービスのデフォルトキーが存在しない場合、は自動的に新しい AWS マネージドキー AWS KMS を作成します。詳細については、「[保管時の DAX 暗号化](#)」を参照してください。

Note

カスタマーマネージドキーは DAX クラスターでは使用できません。

- クラスターのセットアップ時に転送中のデータを暗号化するように DAX クラスターを設定します。既存のクラスターでは転送中の暗号化を有効にすることはできません。DAX は TLS を使用してアプリケーションとクラスター間のリクエストおよびレスポンスを暗号化し、クラスターの x509 証明書を使用してクラスターの ID を認証します。詳細については、「[転送中の DAX 暗号化](#)」を参照してください。
- で AWS Config、[dax-encryption-enabled](#) AWS マネージドルールを実装して DAX クラスターの暗号化を検証および維持します。

Amazon Elastic Compute Cloud および Amazon Elastic Block Store

[Amazon Elastic Compute Cloud \(Amazon EC2\)](#) は、AWS クラウドでスケーラブルなコンピューティング容量を提供します。仮想サーバーを必要な数だけ起動して、迅速にスケールアップまたはスケールダウンができます。[Amazon Elastic Block Store \(Amazon EBS\)](#) は、EC2 インスタンスで使用するためのブロックレベルのストレージボリュームを提供します。

これらのサービスでは、以下の暗号化のベストプラクティスを検討してください。

- すべての EBS ボリュームに適切なデータ分類キーと値をタグ付けします。こうすることで、ポリシーに従って適切なセキュリティと暗号化の要件を決定し、実装できます。
- 暗号化ポリシーと技術的実現可能性に応じて、EC2 インスタンス間、または EC2 インスタンスとオンプレミスネットワーク間で転送中のデータの暗号化を設定します。

- EC2 インスタンスのブートボリュームとデータ EBS ボリュームの両方を暗号化します。暗号化された EBS ボリュームは次のデータを保護します。
 - ボリューム内で保管中のデータ
 - ボリュームとインスタンスの間で移動されるすべてのデータ
 - ボリュームから作成されたすべてのスナップショット
 - それらのスナップショットから作成されたすべてのボリューム

詳細については、「[EBS 暗号化のしくみ](#)」を参照してください。

- 現在のリージョンのアカウントに対して、EBS ボリュームの暗号化をデフォルトで有効にします。こうすることで、新しい EBS ボリュームとスナップショットコピーはすべて強制的に暗号化されます。これは既存の EBS ボリュームまたはスナップショットには影響しません。詳細については、「[デフォルトの暗号化](#)」を参照してください。
- Amazon EC2 インスタンスのインスタンスストアボリュームを暗号化します。こうすることで、オペレーティングシステムで保存されている設定ファイルやデータの保護に役立ちます。詳細については、「[Amazon EC2 インスタンスストア暗号化で保管中のデータを保護する方法](#)」(AWS ブログ記事)を参照してください。
- AWS Config、[暗号化ボリューム](#)ルールを実装して、適切な暗号化設定を検証して適用する自動チェックを行います。

Amazon Elastic Container Registry

[Amazon Elastic Container Registry \(Amazon ECR\)](#) は、セキュリティ、スケーラビリティ、信頼性を備えたマネージドコンテナイメージレジストリサービスです。

Amazon ECR は、Amazon ECR が管理する Amazon S3 バケットにイメージを保存します。各 Amazon ECR リポジトリには、リポジトリの作成時に設定される暗号化設定があります。デフォルトでは、Amazon ECR は Amazon S3 が管理する (SSE-S3) 暗号化キーによるサーバー側の暗号化を使用します。詳細については、「[保管時の暗号化](#)」(Amazon ECR ドキュメント)を参照してください。

このサービスでは、以下の暗号化のベストプラクティスを検討してください。

- Amazon S3 が管理する (SSE-S3) 暗号化キーによるサーバー側暗号化 (デフォルト) を使用する代わりに、AWS KMSに保存されているカスターマネージド KMS キーを使用します。このキータイプは最もきめ細かい管理オプションを提供します。

Note

KMS キーは、リポジトリ AWS リージョン と同じ に存在する必要があります。

- リポジトリのプロビジョニング時に Amazon ECR がデフォルトで作成する権限を取り消さないでください。取り消した場合、データへのアクセス、リポジトリにプッシュされた新しいイメージの暗号化、イメージがプルされた時の復号化などの機能に影響する可能性があります。
- を使用して AWS CloudTrail、Amazon ECR が に送信するリクエストを記録します AWS KMS。ログエントリには、より簡単に識別できるように暗号化コンテキストキーが含まれています。
- 特定の Amazon VPC エンドポイントまたは特定の VPC からのアクセスを制御するように Amazon ECR ポリシーを設定します。これにより、実質的に特定の Amazon ECR リソースへのネットワークアクセスが分離され、特定の VPC からのアクセスのみが許可されます。Amazon VPC エンドポイントとの仮想プライベートネットワーク (VPN) 接続を確立すると、転送中のデータを暗号化できます。
- Amazon ECR はリソーススペースのポリシーをサポートしています。これらのポリシーを使用して、送信元 IP アドレスまたは特定の に基づいてアクセスを制限できます AWS のサービス。

Amazon Elastic Container Service

[Amazon Elastic Container Service \(Amazon ECS\)](#) は、クラスターでコンテナの実行、停止、管理を支援する、高速でスケラブルなコンテナ管理サービスです。

Amazon ECS では、以下のいずれかの方法で転送中のデータを暗号化できます。

- サービスメッシュの作成 を使用して AWS App Mesh、デプロイされた [Envoy](#) プロキシと、[仮想ノード](#)や[仮想ゲートウェイ](#)などのメッシュエンドポイント間の TLS 接続を設定します。TLS 証明書は、AWS Private Certificate Authority またはお客様が用意した証明書から使用できます。詳細とチュートリアルについては、[「\(ACM\) またはお客様が用意した証明書 AWS App Mesh を使用して AWS Certificate Manager のサービス間のトラフィック暗号化を有効にする」](#) (AWS ブログ記事) を参照してください。
- サポートされている場合は、[AWS Nitro Enclaves](#) を使用します。AWS Nitro Enclaves は、Amazon EC2 インスタンスから enclaves と呼ばれる分離された実行環境を作成できる Amazon EC2 機能です。これは、機密性の非常に高いデータの保護に役立つように設計されています。また、[Nitro Enclaves 向けの ACM](#) により、パブリックおよびプライベートの SSL/TLS 証明書を、ウェブアプリケーションおよびウェブサーバー (AWS Nitro Enclaves のある Amazon

EC2 インスタンスで稼働しているサーバー) で使用できます。詳細については、[AWS 「Nitro Enclaves — 機密データを処理するための分離された EC2 環境」](#) (AWS ブログ記事) を参照してください。

- Application Load Balancer では Server Name Indication (SNI) プロトコルを使用します。Application Load Balancerの 単一の HTTPS リスナーの後に複数のアプリケーションをデプロイできます。各リスナーには独自の TLS 証明書があります。ACM が提供する証明書か、自己署名証明書を使用できます。[Application Load Balancer](#) と [Network Load Balancer](#) は、いずれも SNI をサポートします。詳細については、[「Application Load Balancer が SNI を使用したスマート選択で複数の TLS 証明書をサポートするようになりました」](#) (AWS ブログ記事) を参照してください。
- セキュリティと柔軟性を向上させるには、AWS Private Certificate Authority を使用して Amazon ECS タスクで TLS 証明書をデプロイします。詳細については、[「コンテナへの TLS のメンテナンス」](#) [パート 2: の使用 AWS Private CA](#) (AWS ブログ記事) を参照してください。
- [シークレット検出サービス](#) (Envoy) または ACM でホストされる証明書 () を使用して、App Mesh に相互 TLS (mTLS) を実装しますGitHub。 <https://github.com/aws/aws-app-mesh-examples/tree/main/walkthroughs/howto-mutual-tls-file-provided>

このサービスでは、以下の暗号化のベストプラクティスを検討してください。

- 技術的に可能であれば、セキュリティ強化のため、AWS PrivateLinkに [Amazon ECS インターフェイス VPC エンドポイント](#) を設定します。VPN 接続を介してこれらのエンドポイントにアクセスすると、転送中のデータが暗号化されます。
- API キーやデータベース認証情報などの機密情報を安全に保管します。これらを暗号化したパラメータとしてパラメータストアに保存できます。これは AWS Systems Managerの機能です。ただし、AWS Secrets Manager このサービスではシークレットを自動的にローテーションし、ランダムシークレットを生成し、間でシークレットを共有できるため、を使用することをお勧めします AWS アカウント。
- 環境変数からのデータリークのリスクを軽減するために、[AWS Secrets Manager Secret Store CSI ドライバー \(\)](#) には [および Config プロバイダー](#) を使用することをお勧めしますGitHub。このドライバを使用すると、Secrets Manager に保存されているシークレットと、パラメータストアに保存されているパラメータを、Kubernetes ポッドにマウントされたファイルとして表示できます。

Note

AWS Fargate はサポートされていません。

- データセンター内のユーザーまたはアプリケーション、またはウェブ上の外部のサードパーティが直接 HTTPS API リクエストを行っている場合は AWS のサービス、AWS Security Token Service () から取得した一時的なセキュリティ認証情報を使用してリクエストに署名します AWS STS。

Amazon Elastic File System

[Amazon Elastic File System \(Amazon EFS\)](#) は、AWS クラウドでの共有ファイルシステムの作成と設定に役立ちます。

このサービスでは、以下の暗号化のベストプラクティスを検討してください。

- で AWS Config、[efs-encrypted-check](#) AWS マネージドルールを実装します。このルールは、Amazon EFS がを使用してファイルデータを暗号化するように設定されているかどうかを確認します AWS KMS。
- Amazon EFS ファイルシステムの暗号化を強制するには、Amazon CloudWatch アラームを作成します。このアラームは、CloudTrail ログの>CreateFileSystem イベントをモニタリングし、暗号化されていないファイルシステムが作成された場合にアラームをトリガーします。詳細については、「[チュートリアル: 保管時に Amazon EFS ファイルシステムの暗号化を強制する](#)」を参照してください。
- [EFS マウントヘルパー](#)を使用してファイルシステムをマウントする ことすることで、クライアントと Amazon EFS サービス間の TLS 1.2 トンネルが設定および維持され、すべてのネットワークファイルシステム (NFS) トラフィックがこの暗号化されたトンネルを介してルーティングされます。次のコマンドは、転送中の暗号化に TLS を使用する機能を実装します。

```
sudo mount -t efs -o tls file-system-id:/ /mnt/efs
```

詳細については、「[EFS マウントヘルパーを使用して EFS ファイルシステムをマウントする](#)」を参照してください。

- を使用して AWS PrivateLink、インターフェイス VPC エンドポイントを実装し、VPCs と Amazon EFS API 間のプライベート接続を確立します。VPN 接続を介してエンドポイントへ、またはエンドポイントから転送されるデータが暗号化されます。詳細については、「[インターフェイス VPC エンドポイントを使用して AWS のサービスにアクセスする](#)」を参照してください。
- IAM ID ベースのポリシーの elasticfilesystem:Encrypted 条件キーを使用して、暗号化されていない EFS ファイルシステムをユーザーが作成できないようにします。詳細については、「[IAM を使用して暗号化されたファイルシステムの作成を強制する](#)」を参照してください。

- EFS 暗号化に使用する KMS キーは、リソースベースのキーポリシーを使用して最小特権アクセスに設定する必要があります。
- EFS ファイルシステムポリシーの `aws:SecureTransport` 条件キーを使用して、EFS ファイルシステムへの接続時に、NFS クライアントに TLS を強制的に使用します。詳細については、<https://docs.aws.amazon.com/whitepapers/latest/efs-encrypted-file-systems/encryption-of-data-in-transit.html> Amazon Elastic File System を参照してください。AWS

Amazon Elastic Kubernetes Service

[Amazon Elastic Kubernetes Service \(Amazon EKS\)](#) を使用すると、独自の Kubernetes コントロールプレーンまたはノードをインストールまたは維持 AWS することなく、で Kubernetes を実行できます。Kubernetes では、ユーザー証明書、パスワード、API キーなどの機密情報の管理にシークレットが役立ちます。デフォルトでは、これらのシークレットは API サーバーの基盤となるデータストアに暗号化されずに保存されます。このデータストアは `etcd` と呼ばれます。API アクセスまたは `etcd` のアクセス権を持つすべてのユーザーは、シークレットを取得または変更できます。さらに、名前空間にポッドを作成する権限を持つユーザーは誰でも、そのアクセス権を使ってその名前空間のシークレットを読み取ることができます。これらのシークレットは、AWS マネージドキーまたはカスターマネージドキーのいずれかを使用して AWS KMS keys Amazon EKS に保管中に暗号化できます。を使用する代替方法は、[AWS シークレットと Config プロバイダー \(ASCP\)](#) (リポジトリ) GitHub を使用すること `etcd` です。ASCP は IAM およびリソースベースのポリシーと統合して、アクセス先をクラスター内の特定の Kubernetes ポッド内のシークレットのみに制限および限定します。

Kubernetes では、次の AWS ストレージサービスを使用できます。

- Amazon Elastic Block Store (Amazon EBS) には、ツリー内ストレージドライバーまたは [Amazon EBS CSI ドライバー](#) を使用できます。どちらにも、ボリュームの暗号化やカスターマネージドキーの提供のためのパラメータが含まれています。
- Amazon Elastic File System (Amazon EFS) には、[Amazon EFS CSI ドライバー](#) を使用できます。これは動的プロビジョニングと静的プロビジョニングの両方をサポートします。

このサービスでは、以下の暗号化のベストプラクティスを検討してください。

- Amazon EFS では、`tls` パラメータを Amazon EKS の永続的ボリューム内の `mountOptions` に追加して、転送中の暗号化を設定します。詳細については、「[データ暗号化とシークレット管理](#)」(Amazon EKS ベストプラクティスガイド) を参照してください。

- etcd を使用している場合、デフォルトでシークレットオブジェクトは暗号化されずに保存されますが、シークレットを保護するために以下を実行してください。
 - 「[保管中のシークレットデータを暗号化する](#)」(Kubernetes ドキュメント)。
 - シークレットの読み取りおよび書き込みを制限するロールベースアクセスコントロール (RBAC) ルールで認証を有効化または設定します。新しいシークレットの作成や、既存のシークレットの置換を行う権限を制限します。詳細については、「[認証の概要](#)」(Kubernetes ドキュメント) を参照してください。
 - ポッドに複数のコンテナを定義してあり、そのうちの 1 つのコンテナのみがシークレットへのアクセスを必要とする場合は、他のコンテナがそのシークレットにアクセスできないようにボリュームマウントを定義します。tmpfs ボリュームとしてマウントされたシークレットはインスタンス化され、ポッドが削除されるとノードから自動的に削除されます。環境変数を使用することもできますが、環境変数の値がログに表示される可能性があるため、この方法はお勧めしません。詳細については、「[シークレット](#)」(Kubernetes ドキュメント) を参照してください。
 - watch へのアクセスと、名前空間内のシークレットに対する list リクエストの許可はできるだけ避けてください。Kubernetes API では、クライアントがその名前空間のすべてのシークレットの値を調べることができるため、このようなリクエストはかなりの力を持ちます。
 - 読み取り専用アクセスを含めて、クラスター管理者のみが etcd にアクセスできるようにしてください。
 - 複数の etcd インスタンスがある場合、etcd が etcd ピア間の通信に TLS を使用していることを確認してください。
- ASCP を使用している場合は、シークレットを保護するために次のことを行ってください。
 - [サービスアカウントの IAM ロール](#)を使用して、シークレットアクセスを許可されたポッドのみに制限します。
 - [AWS 暗号化プロバイダー](#) (GitHub リポジトリ) を使用して、カスタマーマネージド KMS キーによるエンベロープ暗号化を実装することで、Kubernetes シークレットの暗号化を有効にします。
- Amazon CloudWatch メトリクスフィルターとアラームを作成して、シークレットの削除や、削除する待機期間のシークレットバージョンの使用など、管理者が指定したオペレーションに関するアラートを送信します。詳細については、「[異常検出に基づいてアラームを作成する](#)」を参照してください。

AWS Encryption SDK

[AWS Encryption SDK](#) は、オープンソースのクライアント側暗号化ライブラリです。業界標準とベストプラクティスを使用して、いくつかの[プログラミング言語での実装と相互運用性をサポートします](#)。は、安全で認証された対称キーアルゴリズムを使用してデータを AWS Encryption SDK 暗号化し、暗号化のベストプラクティスに準拠したデフォルトの実装を提供します。詳細については、「[AWS Encryption SDKでサポートされているアルゴリズムスイート](#)」を参照してください。

このサービスでは、以下のベストプラクティスを検討してください。

- 「[AWS Encryption SDKのベストプラクティス](#)」に記載されているすべての推奨事項を順守してください。
- データキーの保護に役立つラップキーを 1 つ以上選択します。詳細については、「[ラップキーの選択](#)」を参照してください。
- 信頼できない KMS キーの使用を防ぐために、KeyId パラメータを [ReEncrypt](#) オペレーションに渡します。詳細については、「[クライアント側の暗号化の改善: 明示的 KeyIds なキーコミットメント](#)」(AWS ブログ記事)を参照してください。
- AWS Encryption SDK でを使用する場合は AWS KMS、ローカルKeyIdフィルタリングを使用します。詳細については、「[クライアント側の暗号化の改良: 明示的なコミットメント KeyIds とキーコミットメント](#)」(AWS ブログ記事)を参照してください。
- 暗号化または復号化を必要とする大量のトラフィックがあるアプリケーション、またはアカウントが AWS KMS [リクエストクォータ](#) を超えている場合は、[のデータキーキャッシュ](#)機能を使用できます AWS Encryption SDK。データキーキャッシュに関しては、以下のベストプラクティスに注意してください。
 - [キャッシュセキュリティのしきい値](#)を設定し、各キャッシュデータキーの使用期間および各データキーで保護されるデータ量を制限します。これらのしきい値を設定する際の推奨事項については、「[キャッシュセキュリティのしきい値の設定](#)」を参照してください。
 - ローカルキャッシュは、特定のアプリケーションユースケースのパフォーマンスを向上させるため、データキーの数を必要最小限に設定してください。ローカルキャッシュの制限を設定する手順と例については、「[データキーキャッシュの使用: Step-by-step](#)」を参照してください。

詳細については、[AWS Encryption SDK「: データキーキャッシュがアプリケーションに適しているかどうかを判断する方法](#)」(AWS ブログ記事)を参照してください。

AWS Key Management Service

[AWS Key Management Service \(AWS KMS\)](#) は、データの保護に役立つ暗号化キーの作成と制御に役立ちます。は、データを暗号化 AWS のサービス できる他のほとんどのと AWS KMS 統合します。詳細なリストについては、「[AWS のサービスと統合 AWS KMS](#)されている」を参照してください。AWS KMS また、とも AWS CloudTrail 統合され、監査、規制、コンプライアンスのニーズに対応するための KMS キーの使用をログに記録します。

KMS キーは のプライマリリソースであり AWS KMS、暗号化キーの論理表現です。KMS キーには主に 3 つのタイプがあります。

- カスタマーマネージドキーは、お客様が作成する KMS キーです。
- AWS マネージドキーは、 がユーザーに代わってアカウントに AWS のサービス 作成する KMS キーです。
- AWS 所有キーは、 が AWS のサービス 所有および管理する KMS キーで、複数の で使用します AWS アカウント。

キーの種類の詳細については、「[カスタマーキーと AWS キー](#)」を参照してください。

では AWS クラウド、 ポリシーを使用して、リソースとサービスにアクセスできるユーザーを制御します。例えば、AWS Identity and Access Management (IAM) では、アイデンティティベースのポリシーがユーザー、ユーザーグループ、またはロールのアクセス許可を定義し、リソースベースのポリシーが S3 バケットなどのリソースにアタッチされ、アクセスを許可するプリンシパル、サポートされているアクション、および満たす必要があるその他の条件を定義します。IAM ポリシーと同様に、は [キーポリシー](#) AWS KMS を使用して KMS キーへのアクセスを制御します。各 KMS キーにはキーポリシーが必要です。また、各キーには 1 つのキーポリシーしか指定できません。KMS キーへのアクセスを許可または拒否するポリシーを定義する場合、次の点に注意してください。

- カスタマーマネージドキーのキーポリシーは制御できますが、AWS マネージドキーまたは AWS 所有キーのキーポリシーを直接制御することはできません。
- キーポリシーを使用すると、内の AWS KMS API コールへのきめ細かなアクセスを許可できます AWS アカウント。キーポリシーで明示的に許可されていない限り、IAM ポリシーを使用して KMS キーへのアクセスを許可することはできません。キーポリシーからの許可がない場合、許可を許可する IAM ポリシーは効力を持ちません。詳細については、「[IAM ポリシーに KMS キーへのアクセスを許可する](#)」を参照してください。
- IAM ポリシーを使用して、キーポリシー対応する権限がないカスタマーマネージドキーへのアクセスを拒否できます。

- マルチリージョンキーのキーポリシーと IAM ポリシーを設計する際は、次の内容を考慮します。
 - キーポリシーはマルチリージョンキーの[共有プロパティ](#)ではありません。また、関連するマルチリージョンキー間のキーポリシーをコピーまたは同期しません。
 - CreateKey と ReplicateKey のアクションを使用してマルチリージョンキーを作成した場合、リクエストでキーポリシーが指定されていない限り、[デフォルトキーポリシー](#)が適用されません。
 - [aws:RequestedRegion](#) などの条件キーを実装して、アクセス許可を特定の AWS リージョンに制限できます。
 - 権限を使用して、マルチリージョンのプライマリキーまたはレプリカキーへのアクセス許可を付与できます。ただし、マルチリージョンキーが関連付けられている場合でも、単一の権限を使用して複数の KMS キーにアクセス許可を付与することはできません。

AWS KMS を使用してキーポリシーを作成するときは、次の暗号化のベストプラクティスとその他のセキュリティのベストプラクティスを考慮してください。

- AWS KMS ベストプラクティスについては、以下のリソースの推奨事項に従ってください。
 - [AWS KMS グラントのベストプラクティス](#) (AWS KMS ドキュメント)
 - [IAM ポリシーのベストプラクティス](#) (AWS KMS ドキュメント)
- 職務分掌のベストプラクティスに従い、キーを管理する人物と使用する人物の ID は個別に管理してください。
 - キーの作成および削除を行う管理者ロールは、そのキーを使用できないようにする必要があります。
 - 一部のサービスでは、データの暗号化のみを必要とするため、キーを使用して復号する権限を付与すべきではない場合があります。
- キーポリシーは、常に最小特権モデルに従う必要があります。kms:* は、IAM またはキーポリシーのアクションに使用しないでください。これはプリンシパルにキーの管理と使用の権限が両方付与されてしまうためです。
- キーポリシー内の [kms:ViaService](#) 条件キー AWS のサービス を使用して、カスタマーマネージドキーの使用を特定の AWS リージョンに制限します。
- キータイプの中から選択できる場合は、カスタマーマネージドキーをお勧めします。これは、次のようなきめ細かな制御オプションが提供されるためです。
 - [認証とアクセスコントロールの管理](#)
 - [キーの有効化と無効化](#)

- [AWS KMS keysのローテーション](#)
- [キーのタグ付け](#)
- [エイリアスの作成](#)
- [AWS KMS keysの削除](#)
- AWS KMS 管理アクセス許可と変更アクセス許可は、承認されていないプリンシパルに対して明示的に拒否する必要があり、AWS KMS 変更アクセス許可は、承認されていないプリンシパルの許可ステートメントに存在してはいけません。詳細については、「[AWS Key Management Serviceのアクション、リソース、および条件キー](#)」を参照してください。
- KMS キーの不正使用を検出するには、[AWS Configiam-customer-policy-blocked-kms-actions](#) および [iam-inline-policy-blocked-kms-actions](#) ルールを実装します。これにより、プリンシパルはすべてのリソースで復元 AWS KMS 号アクションを使用できなくなります。
- のサービスコントロールポリシー (SCPs に実装 AWS Organizations して、権限のないユーザーまたはロールがコマンドとして直接、またはコンソールを介して KMS キーを削除しないようにします。詳細については、「[SCPs の使用](#)」 (AWS ブログ記事) を参照してください。
- AWS KMS API コールをログ CloudTrail に記録します。こうすることで、実行されたリクエストの内容、リクエストの送信元 IP アドレス、リクエストを実行したユーザーなど、関連するイベント属性が記録されます。詳細については、「[を使用した API コールのログ記録 AWS KMSAWS CloudTrail](#)」を参照してください。
- [暗号化コンテキストを使用する場合](#)、機密情報を含めないでください。は、暗号化コンテキストをプレーンテキストの JSON ファイルに CloudTrail 保存します。このファイルは、情報を含む S3 バケットにアクセスできるすべてのユーザーが表示できます。
- カスタマーマネージドキーの使用状況をモニタリングする場合、キーの作成、カスタマーマネージドキーポリシーの更新、キーマテリアルのインポートなど、特定のアクションが検出された際に通知するようイベントを設定します。また、キーを無効化する AWS Lambda 関数や組織のポリシーで指定されているインシデント対応アクションを実行する関数などの自動応答を実装することもお勧めします。
- [マルチリージョンキー](#)は、コンプライアンス準拠、ディザスタリカバリ、バックアップなど、特定のシナリオにお勧めします。マルチリージョンキーのセキュリティプロパティは、単一リージョンキーとは大きく異なります。マルチリージョンキーの作成、管理、使用を許可する際には、以下の推奨事項が適用されます。
 - プリンシパルが、必要とする AWS リージョン のみにマルチリージョンキーをコピーできるようにします。
 - マルチリージョンキーのアクセス許可を、それらを必要とするプリンシパルおよびタスクに対してのみ付与します。

AWS Lambda

[AWS Lambda](#) は、サーバーのプロビジョニングや管理を行うことなくコードを実行できるコンピューティングサービスです。環境変数の保護する場合、サーバー側の暗号化を使用して保管中のデータを保護し、クライアント側の暗号化を使用して転送中のデータを保護することができます。

このサービスでは、以下の暗号化のベストプラクティスを検討してください。

- Lambda は、AWS KMS key で常にサーバー側の暗号化を提供します。デフォルトでは、Lambda は AWS マネージドキーを使用します。管理、ローテーション、監査などの面でキーを完全に制御できるため、カスタマーマネージドキーを使用することをお勧めします。
- 暗号化が必要な転送中のデータについては、ヘルパーを有効にして、転送中の保護のために環境変数をクライアント側で、任意の KMS キーを使用して暗号化できます。詳細については、「[環境変数の保護](#)」の「転送中のセキュリティ」を参照してください。
- 機密データや重要なデータを保持する Lambda 関数の環境変数は、転送中に暗号化する必要があります。これにより、関数に動的に渡されるデータ (通常はアクセス情報) を不正アクセスから保護できます。
- ユーザーが環境変数を表示できないようにするには、デフォルトキー、カスタマーマネージドキー、またはすべてのキーへのアクセスを拒否するステートメントを IAM ポリシーのユーザーのアクセス権限かキーポリシーに追加します。詳細については、[AWS Lambda 環境変数の使用](#)を参照してください。

Amazon Relational Database Service

[Amazon Relational Database Service \(Amazon RDS\)](#) を使用して、AWS クラウドでリレーショナルデータベース (DB) をセットアップ、運用、スケーリングできます。保管中に暗号化されるデータには、DB インスタンス、自動バックアップ、リードレプリカ、スナップショットの基本的なストレージが含まれます。

RDS DB インスタンスに保管中のデータを暗号化する方法は次のとおりです。

- Amazon RDS DB インスタンスは AWS KMS keys AWS、マネージドキーまたはカスタマーマネージドキーのいずれかを使用して暗号化できます。詳細については、このガイドの「[AWS Key Management Service](#)」を参照してください。
- Amazon RDS for Oracle と Amazon RDS for SQL Server は、Transparent Data Encryption (TDE) による DB インスタンスの暗号化をサポートします。詳細については、「[Oracle の Transparent](#)

[Data Encryption](#)」または「[SQL Server の Transparent Data Encryption](#)」のサポートを参照してください。

TDE キーと KMS キーの両方を使用して DB インスタンスを暗号化できます。ただし、これはデータベースのパフォーマンスに若干影響する可能性があるため、これらのキーは個別に管理する必要があります。

RDS DB インスタンスに、または RDS DB インスタンスから転送中のデータを暗号化する方法は次のとおりです。

- MariaDB、Microsoft SQL Server、MySQL、Oracle、PostgreSQL を実行している Amazon RDS DB インスタンスの場合は、SSL で接続を暗号化できます。詳細については、「[SSL/TLS を使用して DB インスタンスへの接続を暗号化する](#)」を参照してください。
- また、Amazon RDS for Oracle は、Oracle ネイティブネットワーク暗号化 (NNE) をサポートしています。これを使用すると、DB インスタンスとの間でデータの移動を暗号化できます。NNE 暗号化と SSL 暗号化は同時に使用できません。詳細については、「[Oracle native network encryption](#)」を参照してください。

このサービスでは、以下の暗号化のベストプラクティスを検討してください。

- 暗号化が必要なデータを処理、保存、または送信するために Amazon RDS for SQL Server または Amazon RDS for PostgreSQL DB インスタンスに接続する場合、RDS トランスポート暗号化機能を使用して接続を暗号化します。これを実装するには、パラメータグループの `rds.force_ssl` パラメータを 1 に設定します。詳細については、「[パラメータグループの操作](#)」を参照してください。Amazon RDS for Oracle は Oracle データベースのネイティブネットワーク暗号化を使用しています。
- RDS DB インスタンス暗号化用のカスタマーマネージドキーは、その目的にのみ使用し、他の AWS のサービスでは使用しないでください。
- RDS DB インスタンスを暗号化する前に、KMS キー要件を設定します。インスタンスが使用するキーは後で変更できません。例えば、暗号化ポリシーでは、ビジネス要件に基づいて、AWS マネージドキーまたはカスタマーマネージドキーの使用および管理基準を定義します。
- 暗号化された RDS DB インスタンスのバックアップを有効化することを強くお勧めします。Amazon RDS は、KMS キーが有効になっていない場合や、KMS キーへの RDS アクセスが取り消された場合などに、DB インスタンスの KMS キーにアクセスできなくなる可能性があります。この場合、暗号化された DB インスタンスは 7 日間回復可能な状態になります。DB インスタンスが 7 日経ってもキーへのアクセスを回復しない場合、最終的にデータベースにはアクセスで

きなくなるため、バックアップから復元する必要があります。詳細については、「[DB インスタンスの暗号化](#)」を参照してください。

- リードレプリカとその暗号化された DB インスタンスが同じにある場合は AWS リージョン、同じ KMS キーを使用して両方を暗号化する必要があります。
- で AWS Config、RDS DB インスタンスの暗号化を検証して適用する [rds-storage-encrypted](#) AWS マネージドルールと、RDS データベーススナップショットの暗号化を検証して適用する [rds-snapshots-encrypted](#) ルールを実装します。

AWS Secrets Manager

[AWS Secrets Manager](#) を使用すると、コード内のハードコードされた認証情報 (パスワードを含む) を Secrets Manager への API コールで置き換えて、プログラムでシークレットを取得することができます。Secrets Manager はと統合 AWS KMS され、すべてのシークレット値のすべてのバージョンを、で保護された一意のデータキーで暗号化します AWS KMS key。この統合により、暗号化キーを使用して保存されたシークレットが保護され、が暗号化 AWS KMS されないままになることはありません。また、KMS キーにカスタムアクセス許可を定義し、保存したシークレットを保護するデータキーを生成、暗号化、復号するオペレーションを監査することができます。詳細については、「[AWS Secrets Managerのシークレットの暗号化と復号](#)」を参照してください。

このサービスでは、以下の暗号化のベストプラクティスを検討してください。

- キーポリシーでは、[kms:ViaService](#) 条件キーを使用して、値 を割り当てることによって Secrets Manager からのリクエストのみにキーの の使用を制限します `secretsmanager.<region>.amazonaws.com`。
- ビジネス要件に基づいてセキュリティを強化するには、[Secrets Manager 暗号化コンテキスト](#)のキーと値を、KMS キーを使用する条件として使用します。この場合、次の内容を作成します。
 - IAM またはキーポリシーの [文字列条件演算子](#)
 - 許可における [権限の制約](#)
- で AWS Config、[secretsmanager-using-cmk](#) AWS マネージドルールを実装して、Secrets Manager のすべてのシークレットが AWS マネージド KMS キーまたはカスタマーマネージド KMS キーで暗号化されていることを確認します。
- シークレットが定義されたローテーションポリシーに準拠していることを確認するには、次の AWS Config ルールを実装します。
 - [secretsmanager-rotation-enabled-check](#) – Secrets Manager に保存されているシークレットにローテーションが設定されているかどうかを確認します。

- [secretsmanager-scheduled-rotation-success-check](#) – シークレットが正常にローテーションされたかどうかを確認します。AWS Config また、最後にローテーションされた日付が設定されたローテーション頻度の範囲内にあるかどうかを確認します。
- [secretsmanager-secret-periodic-rotation](#) – シークレットが指定された日数内にローテーションされたかどうかを確認します。
- [secretsmanager-secret-unused](#) – シークレットが指定された日数内にアクセスされたかどうかを確認します。
- を使用して AWS CloudTrail、ローテーションの開始、ローテーションの成功、ローテーションの失敗、シークレットのスケジュールされた削除など、Secrets Manager および非 API イベントのすべての API コールを記録します。詳細については、「[を使用した AWS Secrets Manager イベントのログ記録 AWS CloudTrail](#)」を参照してください。
- [Amazon CloudWatch Events](#) を使用して、シークレットの削除、シークレットのローテーション、削除が予定されているシークレットの使用の試行など、一部の Secrets Manager オペレーションのアラートを設定します。アラートをトリガーする操作を選択できます。アラートは、E メールまたはテキストメッセージをサブスクライバーに送信する SNS トピックにすることができます。または、後で確認するため、操作の詳細をログに記録する Lambda 関数にすることもできます。

Amazon Simple Storage Service

[Amazon Simple Storage Service \(Amazon S3\)](#) は、量にかかわらず、データを保存、保護、取得するのに役立つクラウドベースのオブジェクトストレージサービスです。

Amazon S3 でのサーバー側の暗号化には 3 つのオプションがあります。

- [Amazon S3 が管理する暗号化キーによるサーバー側の暗号化 \(SSE-S3\)](#)
- [AWS Key Management Service \(SSE-KMS\) によるサーバー側の暗号化](#)
- [お客様が用意した暗号化キーを使用したサーバー側の暗号化 \(SSE-C\)](#)

アップロード時にサーバー側の暗号化を使用してオブジェクトを暗号化する場合は、リクエストに `x-amz-server-side-encryption` ヘッダーを追加して、SSE-S3、SSE-KMS、SSE-C を使用してオブジェクトを暗号化するように Amazon S3 に指示します。x-amz-server-side-encryption ヘッダーの値としては次のようなものが考えられます。

- AES256。Amazon S3 が管理するキーを使用するように、Amazon S3 に指示します。
- `aws:kms`。Amazon S3 に AWS KMS マネージドキーを使用するように指示します。

- SSE-C 用に値を True または False に設定します。

詳細については、「Defense-in-depth 要件 1: バケットポリシーの使用法」および「D 要件 1: Amazon S3 データの保護に役立つ多層防御の適用」(ブログ記事) の「保管中および転送中にデータを暗号化する必要があります」を参照してください。 [Amazon S3 AWS](#)

Amazon S3 での [クライアント側の暗号化](#)には 2 つのオプションがあります。

- に保存されているキー AWS KMS
- アプリケーション内に保存されたキー

このサービスでは、以下の暗号化のベストプラクティスを検討してください。

- で AWS Config、[S3 bucket-server-side-encryption対応](#) AWS マネージドルールを実装して、S3 バケット暗号化を検証して適用します。
- アップロードされるすべてのオブジェクトが、s3:x-amz-server-side-encryption の条件を使用して暗号化されていることを検証する Amazon S3 バケットポリシーをデプロイします。詳細については、「[SSE-S3 を使用したデータの保護](#)」のバケットポリシーのサンプルと、「[バケットポリシーの追加](#)」を参照してください。
- S3 バケットのポリシーに aws:SecureTransport 条件を使用して、HTTPS (TLS) 経由での暗号化された接続のみを許可します。詳細については、[AWS Config 「ルール S3- に準拠するための S3 バケットポリシーを使用すればよいですか？」](#)を参照してください[bucket-ssl-requests-only](#)。
- で AWS Config、SSL を使用するリクエストを要求する [s3bucket-ssl-requests-only](#) AWS マネージドルールを実装します。
- Amazon S3 オブジェクトにクロスアカウントアクセスを許可する必要がある場合は、カスタマーマネージドキーを使用します。他の AWS アカウントからのアクセスを許可するようにキーポリシーを設定します。

Amazon Virtual Private Cloud

[Amazon Virtual Private Cloud \(Amazon VPC\)](#) は、定義した仮想ネットワークに AWS リソースを起動するのに役立ちます。この仮想ネットワークは、お客様自身のデータセンターで運用されていた従来のネットワークに似ていますが、AWS のスケーラブルなインフラストラクチャを使用できるというメリットがあります。

このサービスでは、以下の暗号化のベストプラクティスを検討してください。

- 次のいずれかを使用して、企業ネットワークと VPC 内の情報資産とシステム間のトラフィックを暗号化します。
 - AWS Site-to-Site VPN 接続
 - IPsec で暗号化されたプライベート AWS Direct Connect 接続を提供する AWS Site-to-Site VPN と 接続の組み合わせ IPsec
 - AWS Direct Connect MAC セキュリティ (MACsec) をサポートして企業ネットワークから AWS Direct Connect 口ケーションにデータを暗号化する 接続
- で VPC エンドポイントを使用して AWS PrivateLink、インターネットゲートウェイを使用 AWS のサービス せずに、サポートされている に VPCs をプライベートに接続します。AWS Direct Connect または AWS VPN のサービスを使用して、この接続を確立できます。VPC と他のサービス間のトラフィックは AWS ネットワークを離れません。詳細については、「[AWS のサービス 経由でのアクセス AWS PrivateLink](#)」を参照してください。
- [セキュリティグループルール](#)を設定して、TCP/443 経由の HTTPS など、安全なプロトコルと関連付けられたポートのトラフィックのみを許可します。セキュリティグループとそのルールを定期的に監査します。

リソース

- [Creating an enterprise encryption strategy for data at rest](#)
- [AWS Key Management Service のセキュリティのベストプラクティス](#)
- [AWS のサービスで AWS KMS を使用する方法](#)

ドキュメント履歴

このガイドは、このドキュメントの大きな変更点をまとめたものです。今後の更新に関する通知を受け取る場合は、[RSS フィード](#)をサブスクライブできます。

変更	説明	日付
初版発行	—	2022 年 12 月 2 日

AWS 規範的ガイドの用語集

以下は、AWS 規範的ガイドが提供する戦略、ガイド、パターンで一般的に使用される用語です。エントリを提案するには、用語集の最後のフィードバックの提供リンクを使用します。

数字

7 Rs

アプリケーションをクラウドに移行するための 7 つの一般的な移行戦略。これらの戦略は、ガートナーが 2011 年に特定した 5 Rs に基づいて構築され、以下で構成されています。

- リファクタリング/アーキテクチャの再設計 — クラウドネイティブ特徴を最大限に活用して、俊敏性、パフォーマンス、スケーラビリティを向上させ、アプリケーションを移動させ、アーキテクチャを変更します。これには、通常、オペレーティングシステムとデータベースの移植が含まれます。例: オンプレミスの Oracle データベースを Amazon Aurora PostgreSQL 互換エディションに移行します。
- リプラットフォーム (リフトアンドリシェイプ) — アプリケーションをクラウドに移行し、クラウド機能を活用するための最適化レベルを導入します。例: オンプレミスの Oracle データベースをの Oracle 用 Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) に移行します AWS クラウド。
- 再購入 (ドロップアンドショップ) — 通常、従来のライセンスから SaaS モデルに移行して、別の製品に切り替えます。例: カスタマーリレーションシップ管理 (CRM) システムを Salesforce.com に移行します。
- リホスト (リフトアンドシフト) — クラウド機能を活用するための変更を加えずに、アプリケーションをクラウドに移行します。例: オンプレミスの Oracle データベースをの EC2 インスタンス上の Oracle に移行します AWS クラウド。
- 再配置 (ハイパーバイザーレベルのリフトアンドシフト) — 新しいハードウェアを購入したり、アプリケーションを書き換えたり、既存の運用を変更したりすることなく、インフラストラクチャをクラウドに移行できます。サーバーをオンプレミスプラットフォームから同じプラットフォームのクラウドサービスに移行します。例: Microsoft Hyper-Vアプリケーションをに移行します AWS。
- 保持 (再アクセス) — アプリケーションをお客様のソース環境で保持します。これには、主要なリファクタリングを必要とするアプリケーションや、お客様がその作業を後日まで延期したいアプリケーション、およびそれら移行するためのビジネス上の正当性がないため、お客様が保持するレガシーアプリケーションなどがあります。

- 使用停止 — お客様のソース環境で不要になったアプリケーションを停止または削除します。

A

ABAC

[「属性ベースのアクセスコントロール」](#)を参照してください。

抽象化されたサービス

[「マネージドサービス」](#)を参照してください。

ACID

[「原子性、一貫性、分離性、耐久性」](#)を参照してください。

アクティブ - アクティブ移行

(双方向レプリケーションツールまたは二重書き込み操作を使用して) ソースデータベースとターゲットデータベースを同期させ、移行中に両方のデータベースが接続アプリケーションからのトランザクションを処理するデータベース移行方法。この方法では、1 回限りのカットオーバーの必要がなく、管理された小規模なバッチで移行できます。アクティブ/[パッシブ移行](#)よりも柔軟ですが、より多くの作業が必要です。

アクティブ - パッシブ移行

ソースデータベースとターゲットデータベースを同期させながら、データがターゲットデータベースにレプリケートされている間、接続しているアプリケーションからのトランザクションをソースデータベースのみで処理するデータベース移行の方法。移行中、ターゲットデータベースはトランザクションを受け付けません。

集計関数

行のグループを操作し、グループの単一の戻り値を計算する SQL 関数。集計関数の例としては、SUMや MAXなどがあります。

AI

[「人工知能」](#)を参照してください。

AIOps

[「人工知能オペレーション」](#)を参照してください。

匿名化

データセット内の個人情報を完全に削除するプロセス。匿名化は個人のプライバシー保護に役立ちます。匿名化されたデータは、もはや個人データとは見なされません。

アンチパターン

繰り返し起こる問題に対して頻繁に用いられる解決策で、その解決策が逆効果であったり、効果がなかったり、代替案よりも効果が低かったりするもの。

アプリケーションコントロール

マルウェアからシステムを保護するために、承認されたアプリケーションのみを使用できるようにするセキュリティアプローチ。

アプリケーションポートフォリオ

アプリケーションの構築と維持にかかるコスト、およびそのビジネス価値を含む、組織が使用する各アプリケーションに関する詳細情報の集まり。この情報は、[ポートフォリオの検出と分析プロセス](#)の需要要素であり、移行、モダナイズ、最適化するアプリケーションを特定し、優先順位を付けるのに役立ちます。

人工知能 (AI)

コンピューティングテクノロジーを使用し、学習、問題の解決、パターンの認識など、通常は人間に関連づけられる認知機能の実行に特化したコンピュータサイエンスの分野。詳細については、「[人工知能 \(AI\) とは何ですか?](#)」を参照してください。

AI オペレーション (AIOps)

機械学習技術を使用して運用上の問題を解決し、運用上のインシデントと人の介入を減らし、サービス品質を向上させるプロセス。AWS 移行戦略での AIOps の使用方法については、[オペレーション統合ガイド](#)を参照してください。

非対称暗号化

暗号化用のパブリックキーと復号用のプライベートキーから成る 1 組のキーを使用した、暗号化のアルゴリズム。パブリックキーは復号には使用されないため共有しても問題ありませんが、プライベートキーの利用は厳しく制限する必要があります。

原子性、一貫性、分離性、耐久性 (ACID)

エラー、停電、その他の問題が発生した場合でも、データベースのデータ有効性と運用上の信頼性を保証する一連のソフトウェアプロパティ。

属性ベースのアクセス制御 (ABAC)

部署、役職、チーム名など、ユーザーの属性に基づいてアクセス許可をきめ細かく設定する方法。詳細については、AWS Identity and Access Management (IAM) ドキュメントの「[の ABAC AWS](#)」を参照してください。

信頼できるデータソース

最も信頼性のある情報源とされるデータのプライマリバージョンを保存する場所。匿名化、編集、仮名化など、データを処理または変更する目的で、信頼できるデータソースから他の場所にデータをコピーすることができます。

アベイラビリティゾーン

他のアベイラビリティゾーンの障害から AWS リージョン 隔離され、同じリージョン内の他のアベイラビリティゾーンへの低コストで低レイテンシーのネットワーク接続を提供する 内の別の場所。

AWS クラウド導入フレームワーク (AWS CAF)

組織がクラウドに正常に移行 AWS するための効率的で効果的な計画を立てるのに役立つ、からのガイドラインとベストプラクティスのフレームワーク。AWS CAF は、ビジネス、人材、ガバナンス、プラットフォーム、セキュリティ、運用という 6 つの重点分野にガイダンスを編成します。ビジネス、人材、ガバナンスの観点では、ビジネススキルとプロセスに重点を置き、プラットフォーム、セキュリティ、オペレーションの視点は技術的なスキルとプロセスに焦点を当てています。例えば、人材の観点では、人事 (HR)、人材派遣機能、および人材管理を扱うステークホルダーを対象としています。この観点から、AWS CAF は、組織がクラウド導入を成功させるための準備に役立つ、人材開発、トレーニング、コミュニケーションに関するガイダンスを提供します。詳細については、[AWS CAF ウェブサイト](#) と [AWS CAF のホワイトペーパー](#) を参照してください。

AWS ワークロード認定フレームワーク (AWS WQF)

データベース移行ワークロードを評価し、移行戦略を推奨し、作業見積もりを提供するツール。AWS WQF は AWS Schema Conversion Tool (AWS SCT) に含まれています。データベーススキーマとコードオブジェクト、アプリケーションコード、依存関係、およびパフォーマンス特性を分析し、評価レポートを提供します。

B

不正なボット

個人または組織に混乱や損害を与えることを目的とした**ボット**。

BCP

[「事業継続計画」](#)を参照してください。

動作グラフ

リソースの動作とインタラクションを経時的に示した、一元的なインタラクティブビュー。Amazon Detective の動作グラフを使用すると、失敗したログオンの試行、不審な API 呼び出し、その他同様のアクションを調べることができます。詳細については、Detective ドキュメントの[Data in a behavior graph](#)を参照してください。

ビッグエンディアンシステム

最上位バイトを最初に格納するシステム。[エンディアンネス](#)も参照してください。

二項分類

バイナリ結果 (2 つの可能なクラスのうちの一つ) を予測するプロセス。例えば、お客様の機械学習モデルで「この E メールはスパムですか、それともスパムではありませんか」などの問題を予測する必要があるかもしれません。または「この製品は書籍ですか、車ですか」などの問題を予測する必要があるかもしれません。

ブルームフィルター

要素がセットのメンバーであるかどうかをテストするために使用される、確率的でメモリ効率の高いデータ構造。

ブルー/グリーンデプロイ

2 つの異なる同一の環境を作成するデプロイ戦略。現在のアプリケーションバージョンは 1 つの環境 (青) で実行し、新しいアプリケーションバージョンは他の環境 (緑) で実行します。この戦略は、影響を最小限に抑えながら迅速にロールバックするのに役立ちます。

ボット

インターネット経由で自動タスクを実行し、人間のアクティビティやインタラクションをシミュレートするソフトウェアアプリケーション。インターネット上の情報のインデックスを作成するウェブクローラーなど、一部のボットは有用または有益です。悪質なボットと呼ばれる他のボット

トの中には、個人や組織に混乱を与えたり、損害を与えたりすることを意図しているものがあります。

ポットネット

[マルウェア](#)に感染し、[ポット](#)のヘルダーまたはポットオペレーターと呼ばれる、単一関係者の管理下にあるポットのネットワーク。ポットは、ポットとその影響をスケールするための最もよく知られているメカニズムです。

ブランチ

コードリポジトリに含まれる領域。リポジトリに最初に作成するブランチは、メインブランチといます。既存のブランチから新しいブランチを作成し、その新しいブランチで機能を開発したり、バグを修正したりできます。機能を構築するために作成するブランチは、通常、機能ブランチと呼ばれます。機能をリリースする準備ができたら、機能ブランチをメインブランチに統合します。詳細については、「[ブランチについて](#) (GitHub ドキュメント)」を参照してください。

ブレイクグラスアクセス

例外的な状況や承認されたプロセスを通じて、ユーザーが通常アクセス許可を持たない AWS アカウントにすばやくアクセスできるようにします。詳細については、Well-Architected [ガイド](#)の「[ブレイクグラス手順の実装](#)」インジケータ AWS を参照してください。

ブラウフィールド戦略

環境の既存インフラストラクチャ。システムアーキテクチャにブラウフィールド戦略を導入する場合、現在のシステムとインフラストラクチャの制約に基づいてアーキテクチャを設計します。既存のインフラストラクチャを拡張している場合は、ブラウフィールド戦略と[グリーンフィールド](#)戦略を融合させることもできます。

バッファキャッシュ

アクセス頻度が最も高いデータが保存されるメモリ領域。

ビジネス能力

価値を生み出すためにビジネスが行うこと (営業、カスタマーサービス、マーケティングなど)。マイクロサービスのアーキテクチャと開発の決定は、ビジネス能力によって推進できます。詳細については、ホワイトペーパー [AWSでのコンテナ化されたマイクロサービスの実行](#) の [ビジネス機能を中心に組織化](#) セクションを参照してください。

ビジネス継続性計画 (BCP)

大規模移行など、中断を伴うイベントが運用に与える潜在的な影響に対処し、ビジネスを迅速に再開できるようにする計画。

C

CAF

[AWS 「クラウド導入フレームワーク」を参照してください。](#)

Canary デプロイ

エンドユーザーへのバージョンの低速かつ増分的なリリース。確信できたら、新しいバージョンをデプロイし、現在のバージョン全体を置き換えます。

CCoE

[「Cloud Center of Excellence」を参照してください。](#)

CDC

[「データキャプチャの変更」を参照してください。](#)

変更データキャプチャ (CDC)

データソース (データベーステーブルなど) の変更を追跡し、その変更に関するメタデータを記録するプロセス。CDC は、ターゲットシステムでの変更を監査またはレプリケートして同期を維持するなど、さまざまな目的に使用できます。

カオスエンジニアリング

障害や破壊的なイベントを意図的に導入して、システムの耐障害性をテストします。[AWS Fault Injection Service \(AWS FIS \)](#) を使用して、AWS ワークロードに負荷をかけ、その応答を評価する実験を実行できます。

CI/CD

[「継続的インテグレーションと継続的デリバリー」を参照してください。](#)

分類

予測を生成するのに役立つ分類プロセス。分類問題の機械学習モデルは、離散値を予測します。離散値は、常に互いに区別されます。例えば、モデルがイメージ内に車があるかどうかを評価する必要がある場合があります。

クライアント側の暗号化

ターゲットがデータ AWS のサービスを受信する前に、ローカルでデータを暗号化します。

Cloud Center of Excellence (CCoE)

クラウドのベストプラクティスの作成、リソースの移動、移行のタイムラインの確立、大規模変革を通じて組織をリードするなど、組織全体のクラウド導入の取り組みを推進する学際的なチーム。詳細については、AWS クラウド エンタープライズ戦略ブログの[CCoE の投稿](#)を参照してください。

クラウドコンピューティング

リモートデータストレージと IoT デバイス管理に通常使用されるクラウドテクノロジー。クラウドコンピューティングは、一般的に[エッジコンピューティング](#)テクノロジーに接続されています。

クラウド運用モデル

IT 組織において、1 つ以上のクラウド環境を構築、成熟、最適化するために使用される運用モデル。詳細については、[「クラウド運用モデルの構築」](#)を参照してください。

導入のクラウドステージ

組織が移行するときに通常実行する 4 つのフェーズ AWS クラウド :

- プロジェクト — 概念実証と学習を目的として、クラウド関連のプロジェクトをいくつか実行する
- 基礎固め — お客様のクラウドの導入を拡大するための基礎的な投資 (ランディングゾーン作成、CCoE の定義、運用モデルの確立など)
- 移行 — 個々のアプリケーションの移行
- 再発明 — 製品とサービスの最適化、クラウドでのイノベーション

これらのステージは、AWS クラウド エンタープライズ戦略ブログのブログ記事[「クラウドファーストへのジャーニー」](#)と[「導入のステージ」](#)で Stephen Orban によって定義されました。移行戦略とどのように関連しているかについては、AWS [「移行準備ガイド」](#)を参照してください。

CMDB

[「設定管理データベース」](#)を参照してください。

コードリポジトリ

ソースコードやその他の資産 (ドキュメント、サンプル、スクリプトなど) が保存され、バージョン管理プロセスを通じて更新される場所。一般的なクラウドリポジトリには、GitHub または含まれます AWS CodeCommit。コードの各バージョンはブランチと呼ばれます。マイクロサー

ビスの構造では、各リポジトリは 1 つの機能専用です。1 つの CI/CD パイプラインで複数のリポジトリを使用できます。

コールドキャッシュ

空である、または、かなり空きがある、もしくは、古いデータや無関係なデータが含まれているバッファキャッシュ。データベースインスタンスはメインメモリまたはディスクから読み取る必要があります。バッファキャッシュから読み取るよりも時間がかかるため、パフォーマンスに影響します。

コールドデータ

めったにアクセスされず、通常は過去のデータです。この種類のデータをクエリする場合、通常は低速なクエリでも問題ありません。このデータを低パフォーマンスで安価なストレージ階層またはクラスに移動すると、コストを削減することができます。

コンピュータビジョン (CV)

機械学習を使用してデジタルイメージやビデオなどのビジュアル形式から情報を分析および抽出する [AI](#) の分野。例えば、はオンプレミスのカメラネットワークに CV を追加するデバイス AWS Panorama を提供し、Amazon SageMaker は CV の画像処理アルゴリズムを提供します。

設定ドリフト

ワークロードの場合、設定は想定した状態から変化します。これにより、ワークロードが非標準になる可能性があり、通常は段階的かつ意図的ではありません。

構成管理データベース (CMDB)

データベースとその IT 環境 (ハードウェアとソフトウェアの両方のコンポーネントとその設定を含む) に関する情報を保存、管理するリポジトリ。通常、CMDB のデータは、移行のポートフォリオの検出と分析の段階で使用します。

コンフォーマンスパック

コンプライアンスチェックとセキュリティチェックをカスタマイズするためにアセンブルできる AWS Config ルールと修復アクションのコレクション。YAML テンプレートを使用して、コンフォーマンスパックを AWS アカウント および リージョン、または組織全体に単一のエンティティとしてデプロイできます。詳細については、AWS Config ドキュメントの「[コンフォーマンスパック](#)」を参照してください。

継続的インテグレーションと継続的デリバリー (CI/CD)

ソフトウェアリリースプロセスのソース、ビルド、テスト、ステージング、本番の各ステージを自動化するプロセス。CI/CD は一般的にパイプラインと呼ばれます。プロセスの自動化、生産性

の向上、コード品質の向上、配信の加速化を可能にします。詳細については、「[継続的デリバリーの利点](#)」を参照してください。CD は継続的デプロイ (Continuous Deployment) の略語でもあります。詳細については「[継続的デリバリーと継続的なデプロイ](#)」を参照してください。

CV

[「コンピュータビジョン」](#)を参照してください。

D

保管中のデータ

ストレージ内にあるデータなど、常に自社のネットワーク内にあるデータ。

データ分類

ネットワーク内のデータを重要度と機密性に基づいて識別、分類するプロセス。データに適した保護および保持のコントロールを判断する際に役立つため、あらゆるサイバーセキュリティのリスク管理戦略において重要な要素です。データ分類は、AWS Well-Architected フレームワークのセキュリティの柱のコンポーネントです。詳細については、[データ分類](#)を参照してください。

データドリフト

実稼働データと ML モデルのトレーニングに使用されたデータとの間に有意な差異が生じたり、入力データが時間の経過と共に有意に変化したりすることです。データドリフトは、ML モデル予測の全体的な品質、精度、公平性を低下させる可能性があります。

転送中のデータ

ネットワーク内 (ネットワークリソース間など) を活発に移動するデータ。

データメッシュ

一元化された管理とガバナンスにより、分散型の分散型データ所有権を提供するアーキテクチャフレームワーク。

データ最小化

厳密に必要なデータのみを収集し、処理するという原則。でデータ最小化を実践 AWS クラウドすることで、プライバシーリスク、コスト、分析のカーボンフットプリントを削減できます。

データ境界

AWS 環境内の一連の予防ガードレール。信頼できる ID のみが、期待されるネットワークから信頼できるリソースにアクセスしていることを確認できます。詳細については、[「でのデータ境界の構築 AWS」](#)を参照してください。

データの前処理

raw データをお客様の機械学習モデルで簡単に解析できる形式に変換すること。データの前処理とは、特定の列または行を削除して、欠落している、矛盾している、または重複する値に対処することを意味します。

データ出所

データの生成、送信、保存の方法など、データのライフサイクル全体を通じてデータの出所と履歴を追跡するプロセス。

データ件名

データを収集、処理している個人。

データウェアハウス

分析などのビジネスインテリジェンスをサポートするデータ管理システム。データウェアハウスには通常、大量の履歴データが含まれており、クエリや分析によく使用されます。

データベース定義言語 (DDL)

データベース内のテーブルやオブジェクトの構造を作成または変更するためのステートメントまたはコマンド。

データベース操作言語 (DML)

データベース内の情報を変更 (挿入、更新、削除) するためのステートメントまたはコマンド。

DDL

[「データベース定義言語」](#)を参照してください。

ディープアンサンブル

予測のために複数の深層学習モデルを組み合わせる。ディープアンサンブルを使用して、より正確な予測を取得したり、予測の不確実性を推定したりできます。

ディープラーニング

人工ニューラルネットワークの複数層を使用して、入力データと対象のターゲット変数の間のマッピングを識別する機械学習サブフィールド。

defense-in-depth

一連のセキュリティメカニズムとコントロールをコンピュータネットワーク全体に層状に重ねて、ネットワークとその内部にあるデータの機密性、整合性、可用性を保護する情報セキュリティの手法。この戦略をに採用するときは AWS、AWS Organizations 構造の異なるレイヤーに複数のコントロールを追加して、リソースの安全性を確保します。例えば、defense-in-depth アプローチでは、多要素認証、ネットワークセグメンテーション、暗号化を組み合わせることができます。

委任管理者

では AWS Organizations、互換性のあるサービスが AWS メンバーアカウントを登録して組織のアカウントを管理し、そのサービスのアクセス許可を管理できます。このアカウントを、そのサービスの委任管理者と呼びます。詳細、および互換性のあるサービスの一覧は、AWS Organizations ドキュメントの[AWS Organizationsで利用できるサービス](#)を参照してください。

デプロイメント

アプリケーション、新機能、コードの修正をターゲットの環境で利用できるようにするプロセス。デプロイでは、コードベースに変更を施した後、アプリケーションの環境でそのコードベースを構築して実行します。

開発環境

[「環境」](#)を参照してください。

検出管理

イベントが発生したときに、検出、ログ記録、警告を行うように設計されたセキュリティコントロール。これらのコントロールは副次的な防衛手段であり、実行中の予防的コントロールをすり抜けたセキュリティイベントをユーザーに警告します。詳細については、Implementing security controls on AWSの[Detective controls](#)を参照してください。

開発バリューストリームマッピング (DVSM)

ソフトウェア開発ライフサイクルのスピードと品質に悪影響を及ぼす制約を特定し、優先順位を付けるために使用されるプロセス。DVSM は、もともとリーンマニユファクチャリング・プラクティスのために設計されたバリューストリームマッピング・プロセスを拡張したものです。ソフトウェア開発プロセスを通じて価値を創造し、動かすために必要なステップとチームに焦点を当てています。

デジタルツイン

建物、工場、産業機器、生産ラインなど、現実世界のシステムを仮想的に表現したものです。デジタルツインは、予知保全、リモートモニタリング、生産最適化をサポートします。

ディメンションテーブル

[スタースキーマ](#) では、ファクトテーブル内の量的データに関するデータ属性を含む小さなテーブル。ディメンションテーブル属性は通常、テキストフィールドまたはテキストのように動作する離散数値です。これらの属性は、クエリの制約、フィルタリング、結果セットのラベル付けに一般的に使用されます。

ディザスタ

ワークロードまたはシステムが、導入されている主要な場所でのビジネス目標の達成を妨げるイベント。これらのイベントは、自然災害、技術的障害、または意図しない設定ミスやマルウェア攻撃などの人間の行動の結果である場合があります。

ディザスタリカバリ (DR)

[災害によるダウンタイムとデータ損失を最小限に抑えるために使用する戦略とプロセス](#)。詳細については、AWS Well-Architected [フレームワークの「でのワークロードのディザスタリカバリ AWS: クラウドでのリカバリ」](#) を参照してください。

DML

[「データベース操作言語」](#) を参照してください。

ドメイン駆動型設計

各コンポーネントが提供している変化を続けるドメイン、またはコアビジネス目標にコンポーネントを接続して、複雑なソフトウェアシステムを開発するアプローチ。この概念は、エリック・エヴァンスの著書、Domain-Driven Design: Tackling Complexity in the Heart of Software (ドメイン駆動設計: ソフトウェアの中心における複雑さへの取り組み) で紹介されています (ボストン: Addison-Wesley Professional, 2003)。strangler fig パターンでドメイン駆動型設計を使用する方法の詳細については、[コンテナと Amazon API Gateway を使用して、従来の Microsoft ASP.NET \(ASMX\) ウェブサービスを段階的にモダナイズ](#) を参照してください。

DR

[「ディザスタリカバリ」](#) を参照してください。

ドリフト検出

ベースライン設定からの偏差の追跡。例えば、AWS CloudFormation を使用して [システムリソースのドリフトを検出したり](#)、を使用して AWS Control Tower ガバナンス要件への準拠に影響を与える可能性のある [ランディングゾーンの変更を検出したり](#) できます。

DVSM

[「開発値ストリームマッピング」](#) を参照してください。

E

EDA

[「探索的データ分析」](#)を参照してください。

エッジコンピューティング

IoT ネットワークのエッジにあるスマートデバイスの計算能力を高めるテクノロジー。[クラウドコンピューティング](#)と比較すると、エッジコンピューティングは通信レイテンシーを短縮し、応答時間を短縮できます。

暗号化

人間が読み取り可能なプレーンテキストデータを暗号文に変換するコンピューティングプロセス。

暗号化キー

暗号化アルゴリズムが生成した、ランダム化されたビットからなる暗号文字列。キーの長さは決まっておらず、各キーは予測できないように、一意になるように設計されています。

エンディアン

コンピュータメモリにバイトが格納される順序。ビッグエンディアンシステムでは、最上位バイトが最初に格納されます。リトルエンディアンシステムでは、最下位バイトが最初に格納されます。

エンドポイント

[「サービスエンドポイント」](#)を参照してください。

エンドポイントサービス

仮想プライベートクラウド (VPC) 内でホストして、他のユーザーと共有できるサービス。を使用してエンドポイントサービスを作成し AWS PrivateLink、他の AWS アカウント または AWS Identity and Access Management (IAM) プリンシパルにアクセス許可を付与できます。これらのアカウントまたはプリンシパルは、インターフェイス VPC エンドポイントを作成することで、エンドポイントサービスにプライベートに接続できます。詳細については、Amazon Virtual Private Cloud (Amazon VPC) ドキュメントの「[エンドポイントサービスを作成する](#)」を参照してください。

エンタープライズリソースプランニング (ERP)

エンタープライズの主要なビジネスプロセス (アカウンティング、[MES](#)、プロジェクト管理など) を自動化および管理するシステム。

エンベロープ暗号化

暗号化キーを、別の暗号化キーを使用して暗号化するプロセス。詳細については、AWS Key Management Service (AWS KMS) [ドキュメントの「エンベロープ暗号化」](#)を参照してください。

環境

実行中のアプリケーションのインスタンス。クラウドコンピューティングにおける一般的な環境の種類は以下のとおりです。

- 開発環境 — アプリケーションのメンテナンスを担当するコアチームのみが利用できる、実行中のアプリケーションのインスタンス。開発環境は、上位の環境に昇格させる変更をテストするときに使用します。このタイプの環境は、テスト環境と呼ばれることもあります。
- 下位環境 — 初期ビルドやテストに使用される環境など、アプリケーションのすべての開発環境。
- 本番環境 — エンドユーザーがアクセスできる、実行中のアプリケーションのインスタンス。CI/CD パイプラインでは、本番環境が最後のデプロイ環境になります。
- 上位環境 — コア開発チーム以外のユーザーがアクセスできるすべての環境。これには、本番環境、本番前環境、ユーザー承認テスト環境などが含まれます。

エピック

アジャイル方法論で、お客様の作業の整理と優先順位付けに役立つ機能カテゴリ。エピックでは、要件と実装タスクの概要についてハイレベルな説明を提供します。例えば、AWS CAF セキュリティエピックには、ID とアクセスの管理、検出コントロール、インフラストラクチャセキュリティ、データ保護、インシデント対応が含まれます。AWS 移行戦略のエピックの詳細については、[プログラム実装ガイド](#)を参照してください。

ERP

[「エンタープライズリソース計画」](#)を参照してください。

探索的データ分析 (EDA)

データセットを分析してその主な特性を理解するプロセス。お客様は、データを収集または集計してから、パターンの検出、異常の検出、および前提条件のチェックのための初期調査を実行します。EDA は、統計の概要を計算し、データの可視化を作成することによって実行されます。

F

ファクトテーブル

[スタースキーマ](#) の中央テーブル。事業運営に関する定量的データを保存します。通常、ファクトテーブルには、メジャーを含む列とディメンションテーブルへの外部キーを含む列の 2 種類の列が含まれます。

フェイルファスト

開発ライフサイクルを短縮するために頻繁で段階的なテストを使用する哲学。これはアジャイルアプローチの重要な部分です。

障害分離境界

では AWS クラウド、障害の影響を制限し AWS リージョン、ワークロードの耐障害性を向上させるアベイラビリティゾーン、コントロールプレーン、データプレーンなどの境界です。詳細については、[AWS 「障害分離境界」](#) を参照してください。

機能ブランチ

[「ブランチ」](#) を参照してください。

特徴量

お客様が予測に使用する入力データ。例えば、製造コンテキストでは、特徴量は製造ラインから定期的にキャプチャされるイメージの可能性もあります。

特徴量重要度

モデルの予測に対する特徴量の重要性。これは通常、Shapley Additive Deskonations (SHAP) や積分勾配など、さまざまな手法で計算できる数値スコアで表されます。詳細については、[「を使用した機械学習モデルの解釈可能性 : AWS」](#) を参照してください。

機能変換

追加のソースによるデータのエンリッチ化、値のスケーリング、単一のデータフィールドからの複数の情報セットの抽出など、機械学習プロセスのデータを最適化すること。これにより、機械学習モデルはデータの恩恵を受けることができます。例えば、「2021-05-27 00:15:37」の日付を「2021 年」、「5 月」、「木」、「15」に分解すると、学習アルゴリズムがさまざまなデータコンポーネントに関連する微妙に異なるパターンを学習するのに役立ちます。

FGAC

[「きめ細かなアクセスコントロール」](#) を参照してください。

きめ細かなアクセス制御 (FGAC)

複数の条件を使用してアクセス要求を許可または拒否すること。

フラッシュカット移行

段階的なアプローチを使用するのではなく、[変更データキャプチャ](#)による継続的なデータレプリケーションを使用して、可能な限り短い時間でデータを移行するデータベース移行方法。目的はダウンタイムを最小限に抑えることです。

G

ジオブロッキング

[「地理的制限」](#)を参照してください。

地理的制限 (ジオブロッキング)

Amazon では CloudFront、特定の国のユーザーがコンテンツディストリビューションにアクセスできないようにするオプションです。アクセスを許可する国と禁止する国は、許可リストまたは禁止リストを使って指定します。詳細については、CloudFront ドキュメントの[「コンテンツの地理的ディストリビューションの制限」](#)を参照してください。

Gitflow ワークフロー

下位環境と上位環境が、ソースコードリポジトリでそれぞれ異なるブランチを使用する方法。Gitflow ワークフローはレガシーと見なされ、[トランクベースのワークフロー](#)はモダンで推奨されるアプローチです。

グリーンフィールド戦略

新しい環境に既存のインフラストラクチャが存在しないこと。システムアーキテクチャにグリーンフィールド戦略を導入する場合、既存のインフラストラクチャ (別名 [ブラウンフィールド](#)) との互換性の制約を受けることなく、あらゆる新しいテクノロジーを選択できます。既存のインフラストラクチャを拡張している場合は、ブラウンフィールド戦略とグリーンフィールド戦略を融合させることもできます。

ガードレール

組織単位 (OU) 全般のリソース、ポリシー、コンプライアンスを管理するのに役立つ概略的なルール。予防ガードレールは、コンプライアンス基準に一致するようにポリシーを実施します。これらは、サービスコントロールポリシーと IAM アクセス許可の境界を使用して実装

されます。検出ガードレールは、ポリシー違反やコンプライアンス上の問題を検出し、修復のためのアラートを発信します。これらは、AWS Config、Amazon AWS Security Hub、GuardDuty、Amazon Inspector AWS Trusted Advisor、およびカスタム AWS Lambda チェックを使用して実装されます。

H

HA

[「高可用性」](#)を参照してください。

異種混在データベースの移行

別のデータベースエンジンを使用するターゲットデータベースへお客様の出典データベースの移行 (例えば、Oracle から Amazon Aurora)。異種間移行は通常、アーキテクチャの再設計作業の一部であり、スキーマの変換は複雑なタスクになる可能性があります。[AWS は、スキーマの変換に役立つ AWS SCTを提供します。](#)

ハイアベイラビリティ (HA)

課題や災害が発生した場合に、介入なしにワークロードを継続的に運用できること。HA システムは、自動的にフェイルオーバーし、一貫して高品質のパフォーマンスを提供し、パフォーマンスへの影響を最小限に抑えながらさまざまな負荷や障害を処理するように設計されています。

ヒストリアンのモダナイゼーション

製造業のニーズによりよく応えるために、オペレーションテクノロジー (OT) システムをモダナイズし、アップグレードするためのアプローチ。ヒストリアンは、工場内のさまざまなソースからデータを収集して保存するために使用されるデータベースの一種です。

同種データベースの移行

お客様の出典データベースを、同じデータベースエンジンを共有するターゲットデータベース (Microsoft SQL Server から Amazon RDS for SQL Server など) に移行する。同種間移行は、通常、リホストまたはリプラットフォーム化の作業の一部です。ネイティブデータベースユーティリティを使用して、スキーマを移行できます。

ホットデータ

リアルタイムデータや最近の翻訳データなど、頻繁にアクセスされるデータ。通常、このデータには高速なクエリ応答を提供する高性能なストレージ階層またはクラスが必要です。

ホットフィックス

本番環境の重大な問題を修正するために緊急で配布されるプログラム。緊急性のため、通常、修正は一般的な DevOps リリースワークフローの外で行われます。

ハイパーケア期間

カットオーバー直後、移行したアプリケーションを移行チームがクラウドで管理、監視して問題に対処する期間。通常、この期間は 1~4 日です。ハイパーケア期間が終了すると、アプリケーションに対する責任は一般的に移行チームからクラウドオペレーションチームに移ります。

I

IaC

[「Infrastructure as Code」](#) を参照してください。

ID ベースのポリシー

AWS クラウド 環境内のアクセス許可を定義する 1 つ以上の IAM プリンシパルにアタッチされたポリシー。

アイドル状態のアプリケーション

90 日間の平均的な CPU およびメモリ使用率が 5~20% のアプリケーション。移行プロジェクトでは、これらのアプリケーションを廃止するか、オンプレミスに保持するのが一般的です。

IIoT

[「産業モノのインターネット」](#) を参照してください。

イミュータブルインフラストラクチャ

既存のインフラストラクチャを更新、パッチ適用、または変更するのではなく、本番ワークロード用の新しいインフラストラクチャをデプロイするモデル。イミュータブルなインフラストラクチャは、[本質的にミュータブルなインフラストラクチャ](#) よりも一貫性、信頼性、予測性が高くなります。詳細については、AWS Well-Architected フレームワークの[「イミュータブルインフラストラクチャを使用したデプロイ」](#) のベストプラクティスを参照してください。

インバウンド (受信) VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、アプリケーション外からのネットワーク接続を受け入れ、検査し、ルーティングする VPC。[AWS Security Reference Architecture](#) では、アプリ

ケーションとより広範なインターネット間の双方向のインターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスペクションの各 VPC を使用してネットワークアカウントを設定することを推奨しています。

増分移行

アプリケーションを 1 回ですべてカットオーバーするのではなく、小さい要素に分けて移行するカットオーバー戦略。例えば、最初は少数のマイクロサービスまたはユーザーのみを新しいシステムに移行する場合があります。すべてが正常に機能することを確認できたら、残りのマイクロサービスやユーザーを段階的に移行し、レガシーシステムを廃止できるようにします。この戦略により、大規模な移行に伴うリスクが軽減されます。

インダストリー 4.0

接続、リアルタイムデータ、自動化、分析、AI/ML の進歩を通じて、のビジネスプロセスのモダナイゼーションを指すために 2016 年に [Klaus Schwab](#) によって導入された用語。

インフラストラクチャ

アプリケーションの環境に含まれるすべてのリソースとアセット。

Infrastructure as Code (IaC)

アプリケーションのインフラストラクチャを一連の設定ファイルを使用してプロビジョニングし、管理するプロセス。IaC は、新しい環境を再現可能で信頼性が高く、一貫性のあるものにするため、インフラストラクチャを一元的に管理し、リソースを標準化し、スケールを迅速に行えるように設計されています。

産業分野における IoT (IIoT)

製造、エネルギー、自動車、ヘルスケア、ライフサイエンス、農業などの産業部門におけるインターネットに接続されたセンサーやデバイスの使用。詳細については、「[Building an industrial Internet of Things \(IIoT\) digital transformation strategy](#)」を参照してください。

インスペクション VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、VPC (同一または異なる 内 AWS リージョン)、インターネット、オンプレミスネットワーク間のネットワークトラフィックの検査を管理する一元化された VPCs。 [AWS Security Reference Architecture](#) では、アプリケーションとより広範なインターネット間の双方向のインターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスペクションの各 VPC を使用してネットワークアカウントを設定することを推奨しています。

IoT

インターネットまたはローカル通信ネットワークを介して他のデバイスやシステムと通信する、センサーまたはプロセッサが組み込まれた接続済み物理オブジェクトのネットワーク。詳細については、「[IoT とは](#)」を参照してください。

解釈可能性

機械学習モデルの特性で、モデルの予測がその入力にどのように依存するかを人間が理解できる度合いを表します。詳細については、「[AWS を使用した機械学習モデルの解釈](#)」を参照してください。

IoT

「[モノのインターネット](#)」を参照してください。

IT 情報ライブラリ (ITIL)

IT サービスを提供し、これらのサービスをビジネス要件に合わせるための一連のベストプラクティス。ITIL は ITSM の基盤を提供します。

IT サービス管理 (ITSM)

組織の IT サービスの設計、実装、管理、およびサポートに関連する活動。クラウドオペレーションと ITSM ツールの統合については、「[オペレーション統合ガイド](#)」を参照してください。

ITIL

「[IT 情報ライブラリ](#)」を参照してください。

ITSM

「[IT サービス管理](#)」を参照してください。

L

ラベルベースアクセス制御 (LBAC)

強制アクセス制御 (MAC) の実装で、ユーザーとデータ自体にそれぞれセキュリティラベル値が明示的に割り当てられます。ユーザーセキュリティラベルとデータセキュリティラベルが交差する部分によって、ユーザーに表示される行と列が決まります。

ランディングゾーン

ランディングゾーンは、スケーラブルで安全な、適切に設計されたマルチアカウント AWS 環境です。これは、組織がセキュリティおよびインフラストラクチャ環境に自信を持ってワークロー

ドとアプリケーションを迅速に起動してデプロイできる出発点です。ランディングゾーンの詳細については、[安全でスケーラブルなマルチアカウント AWS 環境のセットアップ](#) を参照してください。

大規模な移行

300 台以上のサーバの移行。

LBAC

[「ラベルベースのアクセスコントロール」](#) を参照してください。

最小特権

タスクの実行には必要最低限の権限を付与するという、セキュリティのベストプラクティス。詳細については、IAM ドキュメントの[最小特権アクセス許可を適用する](#) を参照してください。

リフトアンドシフト

[「7 Rs」](#) を参照してください。

リトルエンディアンシステム

最下位バイトを最初に格納するシステム。[エンディアンネス](#) も参照してください。

下位環境

[「環境」](#) を参照してください。

M

機械学習 (ML)

パターン認識と学習にアルゴリズムと手法を使用する人工知能の一種。ML は、モノのインターネット (IoT) データなどの記録されたデータを分析して学習し、パターンに基づく統計モデルを生成します。詳細については、「[機械学習](#)」を参照してください。

メインブランチ

[「ブランチ」](#) を参照してください。

マルウェア

コンピュータのセキュリティまたはプライバシーを侵害するように設計されているソフトウェア。マルウェアは、コンピュータシステムの中断、機密情報の漏洩、不正アクセスにつながる

可能性があります。マルウェアの例としては、ウイルス、ワーム、ランサムウェア、トロイの木馬、スパイウェア、キーロガーなどがあります。

マネージドサービス

AWS のサービスがインフラストラクチャレイヤー、オペレーティングシステム、プラットフォーム AWS を運用し、ユーザーがエンドポイントにアクセスしてデータを保存および取得します。Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) と Amazon DynamoDB は、マネージドサービスの例です。これらは抽象化されたサービスとも呼ばれます。

製造実行システム (MES)

生産プロセスを追跡、モニタリング、文書化、制御するためのソフトウェアシステム。これにより、加工品を現場の完成製品に変換します。

MAP

[「移行促進プログラム」](#) を参照してください。

メカニズム

ツールを作成し、ツールの導入を推進し、調整のために結果を検査する完全なプロセス。メカニズムは、動作中にそれ自体を強化して改善するサイクルです。詳細については、AWS Well-Architected フレームワークの [「メカニズムの構築」](#) を参照してください。

メンバーアカウント

の組織の一部である管理アカウント AWS アカウントを除くすべての AWS Organizations。アカウントが組織のメンバーになることができるのは、一度に 1 つのみです。

MES

[「製造実行システム」](#) を参照してください。

メッセージキューイングテレメトリトランスポート (MQTT)

リソースに制約のある IoT デバイス用の、[パブリッシュ/サブスクライブ](#) パターンに基づく軽量の machine-to-machine (M2M) 通信プロトコル。

マイクロサービス

明確に定義された API を介して通信し、通常は小規模な自己完結型のチームが所有する、小規模で独立したサービスです。例えば、保険システムには、販売やマーケティングなどのビジネス機能、または購買、請求、分析などのサブドメインにマッピングするマイクロサービスが含まれる場合があります。マイクロサービスの利点には、俊敏性、柔軟なスケーリング、容易なデプロ

イ、再利用可能なコード、回復力などがあります。詳細については、[AWS 「サーバーレスサービスを使用したマイクロサービスの統合」](#)を参照してください。

マイクロサービスアーキテクチャ

各アプリケーションプロセスをマイクロサービスとして実行する独立したコンポーネントを使用してアプリケーションを構築するアプローチ。これらのマイクロサービスは、軽量 API を使用して、明確に定義されたインターフェイスを介して通信します。このアーキテクチャの各マイクロサービスは、アプリケーションの特定の機能に対する需要を満たすように更新、デプロイ、およびスケーリングできます。詳細については、「[でのマイクロサービスの実装 AWS](#)」を参照してください。

Migration Acceleration Program (MAP)

コンサルティングサポート、トレーニング、サービスを提供する AWS プログラム。組織がクラウドへの移行のための強固な運用基盤を構築し、移行の初期コストを相殺するのに役立ちます。MAP には、組織的な方法でレガシー移行を実行するための移行方法論と、一般的な移行シナリオを自動化および高速化する一連のツールが含まれています。

大規模な移行

アプリケーションポートフォリオの大部分を次々にクラウドに移行し、各ウェーブでより多くのアプリケーションを高速に移動させるプロセス。この段階では、以前の段階から学んだベストプラクティスと教訓を使用して、移行ファクトリー チーム、ツール、プロセスのうち、オートメーションとアジャイルデリバリーによってワークロードの移行を合理化します。これは、[AWS 移行戦略](#) の第 3 段階です。

移行ファクトリー

自動化された俊敏性のあるアプローチにより、ワークロードの移行を合理化する部門横断的なチーム。移行ファクトリーチームには、通常、オペレーション、ビジネスアナリストと所有者、移行エンジニア、デベロッパー、スプリントに取り組む DevOps プロフェッショナルが含まれます。エンタープライズアプリケーションポートフォリオの 20~50% は、ファクトリーのアプローチによって最適化できる反復パターンで構成されています。詳細については、このコンテンツセットの[移行ファクトリーに関する解説](#)と[Cloud Migration Factory ガイド](#)を参照してください。

移行メタデータ

移行を完了するために必要なアプリケーションおよびサーバーに関する情報。移行パターンごとに、異なる一連の移行メタデータが必要です。移行メタデータの例には、ターゲットサブネット、セキュリティグループ、AWS アカウントなどがあります。

移行パターン

移行戦略、移行先、および使用する移行アプリケーションまたはサービスを詳述する、反復可能な移行タスク。例: Application Migration Service を使用して Amazon EC2 AWS への移行をリホストします。

Migration Portfolio Assessment (MPA)

に移行するためのビジネスケースを検証するための情報を提供するオンラインツール AWS クラウド。MPA は、詳細なポートフォリオ評価 (サーバーの適切なサイジング、価格設定、TCO 比較、移行コスト分析) および移行プラン (アプリケーションデータの分析とデータ収集、アプリケーションのグループ化、移行の優先順位付け、およびウェブプランニング) を提供します。[MPA ツール](#) (ログインが必要) は、すべての AWS コンサルタントと APN パートナーコンサルタントが無料で利用できます。

移行準備状況評価 (MRA)

AWS CAF を使用して、組織のクラウド準備状況に関するインサイトを取得し、長所と短所を特定し、特定されたギャップを埋めるためのアクションプランを構築するプロセス。詳細については、[移行準備状況ガイド](#) を参照してください。MRA は、[AWS 移行戦略](#) の第一段階です。

移行戦略

ワークロードを に移行するために使用されるアプローチ AWS クラウド。詳細については、この用語集の「[7 Rs エントリ](#)」と「[組織を動員して大規模な移行を加速する](#)」を参照してください。

ML

[「機械学習」を参照してください。](#)

モダナイゼーション

古い (レガシーまたはモノリシック) アプリケーションとそのインフラストラクチャをクラウド内の俊敏で弾力性のある高可用性システムに変換して、コストを削減し、効率を高め、イノベーションを活用します。詳細については、「」の「[アプリケーションをモダナイズするための戦略 AWS クラウド](#)」を参照してください。

モダナイゼーション準備状況評価

組織のアプリケーションのモダナイゼーションの準備状況を判断し、利点、リスク、依存関係を特定し、組織がこれらのアプリケーションの将来の状態をどの程度適切にサポートできるかを決定するのに役立つ評価。評価の結果として、ターゲットアーキテクチャのブループリント、モダナイゼーションプロセスの開発段階とマイルストーンを詳述したロードマップ、特定され

たギャップに対処するためのアクションプランが得られます。詳細については、[「」の「アプリケーションのモダナイゼーション準備状況の評価 AWS クラウド」](#)を参照してください。

モノリシックアプリケーション (モノリス)

緊密に結合されたプロセスを持つ単一のサービスとして実行されるアプリケーション。モノリシックアプリケーションにはいくつかの欠点があります。1つのアプリケーション機能エクスペリエンスの需要が急増する場合は、アーキテクチャ全体をスケーリングする必要があります。モノリシックアプリケーションの特徴を追加または改善することは、コードベースが大きくなると複雑になります。これらの問題に対処するには、マイクロサービスアーキテクチャを使用できません。詳細については、[モノリスをマイクロサービスに分解する](#)を参照してください。

MPA

[「移行ポートフォリオ評価」](#)を参照してください。

MQTT

[「Message Queuing Telemetry Transport」](#)を参照してください。

多クラス分類

複数のクラスの予測を生成するプロセス (2 つ以上の結果の 1 つを予測します)。例えば、機械学習モデルが、「この製品は書籍、自動車、電話のいずれですか?」または、「このお客様にとって最も関心のある商品のカテゴリはどれですか?」と聞くかもしれません。

変更可能なインフラストラクチャ

本番ワークロードの既存のインフラストラクチャを更新および変更するモデル。Well-Architected AWS Framework では、一貫性、信頼性、予測可能性を向上させるために、[イミュータブルなインフラストラクチャ](#)の使用をベストプラクティスとして推奨しています。

O

OAC

[「オリジンアクセスコントロール」](#)を参照してください。

OAI

[「オリジンアクセスアイデンティティ」](#)を参照してください。

OCM

[「組織変更管理」](#)を参照してください。

オフライン移行

移行プロセス中にソースワークロードを停止させる移行方法。この方法はダウンタイムが長くなるため、通常は重要ではない小規模なワークロードに使用されます。

OI

「[オペレーション統合](#)」を参照してください。

OLA

「[運用レベルの契約](#)」を参照してください。

オンライン移行

ソースワークロードをオフラインにせずターゲットシステムにコピーする移行方法。ワークロードに接続されているアプリケーションは、移行中も動作し続けることができます。この方法はダウンタイムがゼロから最小限で済むため、通常は重要な本番稼働環境のワークロードに使用されます。

OPC-UA

「[Open Process Communications - Unified Architecture](#)」を参照してください。

オープンプロセス通信 - 統合アーキテクチャ (OPC-UA)

産業用オートメーション用の machine-to-machine (M2M) 通信プロトコル。OPC-UA は、データの暗号化、認証、認可スキームを備えた相互運用性標準を提供します。

オペレーショナルレベルアグリーメント (OLA)

サービスレベルアグリーメント (SLA) をサポートするために、どの機能的 IT グループが互いに提供することを約束するかを明確にする契約。

運用準備状況レビュー (ORR)

インシデントや潜在的な障害の理解、評価、防止、または範囲の縮小に役立つ質問とそれに関連するベストプラクティスのチェックリスト。詳細については、AWS Well-Architected フレームワークの「[運用準備レビュー \(ORR\)](#)」を参照してください。

運用テクノロジー (OT)

産業運用、機器、インフラストラクチャを制御するために物理環境と連携するハードウェアおよびソフトウェアシステム。製造では、OT と情報テクノロジー (IT) システムの統合が、[Industry 4.0](#) トランスフォーメーションの主要な焦点です。

オペレーション統合 (OI)

クラウドでオペレーションをモダナイズするプロセスには、準備計画、オートメーション、統合が含まれます。詳細については、[オペレーション統合ガイド](#)を参照してください。

組織の証跡

の組織 AWS アカウント 内のすべての のすべてのイベントをログ AWS CloudTrail に記録する、によって作成された証跡 AWS Organizations。証跡は、組織に含まれている各 AWS アカウントに作成され、各アカウントのアクティビティを追跡します。詳細については、ドキュメントの[「組織の証跡の作成」](#)を参照してください。CloudTrail

組織変更管理 (OCM)

人材、文化、リーダーシップの観点から、主要な破壊的なビジネス変革を管理するためのフレームワーク。OCM は、変化の導入を加速し、移行問題に対処し、文化や組織の変化を推進することで、組織が新しいシステムと戦略の準備と移行するのを支援します。AWS 移行戦略では、クラウド導入プロジェクトに必要な変化のスピードから、このフレームワークは人材アクセラレーションと呼ばれます。詳細については、[OCM ガイド](#)を参照してください。

オリジンアクセスコントロール (OAC)

では CloudFront、Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) コンテンツを保護するためのアクセスを制限するための拡張オプションです。OAC は、すべての のすべての S3 バケット AWS リージョン、AWS KMS (SSE-KMS) によるサーバー側の暗号化、S3 バケットへの動的 PUT および DELETE リクエストをサポートします。

オリジンアクセスアイデンティティ (OAI)

では CloudFront、Amazon S3 コンテンツを保護するためのアクセスを制限するオプションです。OAI を使用すると、は Amazon S3 が認証できるプリンシパル CloudFront を作成します。認証されたプリンシパルは、特定の CloudFront ディストリビューションを介してのみ S3 バケット内のコンテンツにアクセスできます。[OAC](#)も併せて参照してください。OAC では、より詳細な、強化されたアクセスコントロールが可能です。

ORR

[「運用準備状況レビュー」](#)を参照してください。

OT

[「運用技術」](#)を参照してください。

アウトバウンド (送信) VPC

AWS マルチアカウントアーキテクチャでは、アプリケーション内から開始されるネットワーク接続を処理する VPC。[AWS Security Reference Architecture](#) では、アプリケーションとより広範なインターネット間の双方向のインターフェイスを保護するために、インバウンド、アウトバウンド、インスペクションの各 VPC を使用してネットワークアカウントを設定することを推奨しています。

P

アクセス許可の境界

ユーザーまたはロールが使用できるアクセス許可の上限を設定する、IAM プリンシパルにアタッチされる IAM 管理ポリシー。詳細については、IAM ドキュメントの[アクセス許可の境界](#)を参照してください。

個人を特定できる情報 (PII)

直接閲覧した場合、または他の関連データと組み合わせた場合に、個人の身元を合理的に推測するために使用できる情報。PII の例には、氏名、住所、連絡先情報などがあります。

PII

[個人を特定できる情報を参照してください。](#)

プレイブック

クラウドでのコアオペレーション機能の提供など、移行に関連する作業を取り込む、事前定義された一連のステップ。プレイブックは、スクリプト、自動ランブック、またはお客様のモダナイズされた環境を運用するために必要なプロセスや手順の要約などの形式をとることができます。

PLC

[「プログラム可能なロジックコントローラー」を参照してください。](#)

PLM

[「製品ライフサイクル管理」を参照してください。](#)

ポリシー

アクセス許可の定義 ([アイデンティティベースのポリシーを参照](#))、アクセス条件の指定 ([リソースベースのポリシーを参照](#))、または の組織内のすべてのアカウントに対する最大アクセス許可の定義 AWS Organizations ([サービスコントロールポリシーを参照](#)) が可能なオブジェクト。

多言語の永続性

データアクセスパターンやその他の要件に基づいて、マイクロサービスのデータストレージテクノロジーを個別に選択します。マイクロサービスが同じデータストレージテクノロジーを使用している場合、実装上の問題が発生したり、パフォーマンスが低下する可能性があります。マイクロサービスは、要件に最も適合したデータストアを使用すると、より簡単に実装でき、パフォーマンスとスケーラビリティが向上します。詳細については、[マイクロサービスでのデータ永続性の有効化](#)を参照してください。

ポートフォリオ評価

移行を計画するために、アプリケーションポートフォリオの検出、分析、優先順位付けを行うプロセス。詳細については、「[移行準備状況ガイド](#)」を参照してください。

述語

true または を返すクエリ条件。false 通常は WHERE 句にあります。

述語プッシュダウン

転送前にクエリ内のデータをフィルタリングするデータベースクエリ最適化手法。これにより、リレーショナルデータベースから取得して処理する必要があるデータの量が減少し、クエリのパフォーマンスが向上します。

予防的コントロール

イベントの発生を防ぐように設計されたセキュリティコントロール。このコントロールは、ネットワークへの不正アクセスや好ましくない変更を防ぐ最前線の防御です。詳細については、Implementing security controls on AWSの[Preventative controls](#)を参照してください。

プリンシパル

アクションを実行し AWS、リソースにアクセスできるのエンティティ。このエンティティは通常、IAM ロール AWS アカウント、またはユーザーのルートユーザーです。詳細については、IAM ドキュメントの[ロールに関する用語と概念](#)内にあるプリンシパルを参照してください。

プライバシーバイデザイン

エンジニアリングプロセス全体を通してプライバシーを考慮に入れたシステムエンジニアリングのアプローチ。

プライベートホストゾーン

1 つ以上の VPC 内のドメインとそのサブドメインへの DNS クエリに対し、Amazon Route 53 がどのように応答するかに関する情報を保持するコンテナ。詳細については、Route 53 ドキュメントの「[プライベートホストゾーンの使用](#)」を参照してください。

プロアクティブコントロール

非準拠のリソースのデプロイを防止するように設計された[セキュリティコントロール](#)。これらのコントロールは、プロビジョニング前にリソースをスキャンします。リソースがコントロールに準拠していない場合、プロビジョニングされません。詳細については、AWS Control Tower ドキュメントの「[コントロールリファレンスガイド](#)」および「[でのセキュリティコントロールの実装](#)」の「[プロアクティブコントロール](#)」を参照してください。 AWS

製品ライフサイクル管理 (PLM)

設計、開発、発売から成長、成熟、縮小、削除まで、ライフサイクル全体にわたる製品のデータとプロセスの管理。

本番環境

[「環境」](#)を参照してください。

プログラミング可能ロジックコントローラー (NAL)

製造では、マシンをモニタリングし、承認プロセスを自動化する、信頼性が高く、適応性の高いコンピュータです。

仮名化

データセット内の個人識別子をプレースホルダー値に置き換えるプロセス。仮名化は個人のプライバシー保護に役立ちます。仮名化されたデータは、依然として個人データとみなされます。

パブリッシュ/サブスクライブ (pub/sub)

マイクロサービス間の非同期通信を可能にしてスケーラビリティと応答性を向上させるパターン。例えば、マイクロサービスベースの[MES](#)では、マイクロサービスは他のマイクロサービスがサブスクライブできるチャンネルにイベントメッセージを発行できます。システムは、公開サービスを変更せずに新しいマイクロサービスを追加できます。

Q

クエリプラン

SQL リレーショナルデータベースシステムのデータにアクセスするために使用する手順などの一連のステップ。

クエリプランのリグレッション

データベースサービスのオプティマイザーが、データベース環境に特定の変更が加えられる前に選択されたプランよりも最適性の低いプランを選択すること。これは、統計、制限事項、環境設

定、クエリパラメータのバインディングの変更、およびデータベースエンジンの更新などが原因である可能性があります。

R

RACI マトリックス

[責任、説明責任、相談、情報 \(RACI\)](#) を参照してください。

ランサムウェア

決済が完了するまでコンピュータシステムまたはデータへのアクセスをブロックするように設計された、悪意のあるソフトウェア。

RASCI マトリックス

[責任、説明責任、相談、情報 \(RACI\)](#) を参照してください。

RCAC

[「行と列のアクセスコントロール」](#) を参照してください。

リードレプリカ

読み取り専用で使用されるデータベースのコピー。クエリをリードレプリカにルーティングして、プライマリデータベースへの負荷を軽減できます。

再構築

[「7 R」](#) を参照してください。

目標復旧時点 (RPO)

最後のデータリカバリポイントからの最大許容時間です。これにより、最後の回復時点からサービスが中断されるまでの間に許容できるデータ損失の程度が決まります。

目標復旧時間 (RTO)

サービスの中断から復旧までの最大許容遅延時間。

リファクタリング

[「7 R」](#) を参照してください。

リージョン

地理的エリア内の AWS リソースのコレクション。各 AWS リージョンは、耐障害性、安定性、耐障害性を提供するために、他のから分離され、独立しています。詳細については、[AWS リージョン「を使用できるアカウントを指定する」](#)を参照してください。

回帰

数値を予測する機械学習手法。例えば、「この家はどれくらいの値段で売れるでしょうか?」という問題を解決するために、機械学習モデルは、線形回帰モデルを使用して、この家に関する既知の事実(平方フィートなど)に基づいて家の販売価格を予測できます。

リホスト

[「7 R」を参照してください。](#)

リリース

デプロイプロセスで、変更を本番環境に昇格させること。

再配置

[「7 Rs」を参照してください。](#)

プラットフォーム変更

[「7 R」を参照してください。](#)

再購入

[「7 R」を参照してください。](#)

回復性

中断に耐えたり、中断から回復したりするアプリケーションの機能。で障害耐性を計画する場合、[高可用性](#)と[ディザスタリカバリ](#)が一般的な考慮事項です AWS クラウド。詳細については、[AWS クラウド「レジリエンス」](#)を参照してください。

リソースベースのポリシー

Amazon S3 バケット、エンドポイント、暗号化キーなどのリソースにアタッチされたポリシー。このタイプのポリシーは、アクセスが許可されているプリンシパル、サポートされているアクション、その他の満たすべき条件を指定します。

実行責任者、説明責任者、協業先、報告先 (RACI) に基づくマトリックス

移行活動とクラウド運用に関わるすべての関係者の役割と責任を定義したマトリックス。マトリックスの名前は、マトリックスで定義されている責任の種類、すなわち責任 (R)、説明責任

(A)、協議 (C)、情報提供 (I) に由来します。サポート (S) タイプはオプションです。サポートを含めると、そのマトリックスは RASCI マトリックスと呼ばれ、サポートを除外すると RACI マトリックスと呼ばれます。

レスポンスコントロール

有害事象やセキュリティベースラインからの逸脱について、修復を促すように設計されたセキュリティコントロール。詳細については、Implementing security controls on AWSの[Responsive controls](#)を参照してください。

保持

[「7R」を参照してください。](#)

廃止

[「7R」を参照してください。](#)

ローテーション

攻撃者が認証情報にアクセスすることをより困難にするために、[シークレット](#)を定期的に更新するプロセス。

行と列のアクセス制御 (RCAC)

アクセスルールが定義された、基本的で柔軟な SQL 表現の使用。RCAC は行権限と列マスクで構成されています。

RPO

「目標[復旧時点](#)」を参照してください。

RTO

「目標[復旧時間](#)」を参照してください。

ランブック

特定のタスクを実行するために必要な手動または自動化された一連の手順。これらは通常、エラー率の高い反復操作や手順を合理化するために構築されています。

S

SAML 2.0

多くの ID プロバイダー (IdPs) が使用するオープンスタンダード。この機能により、フェデレーテッドシングルサインオン (SSO) が有効になるため、ユーザーは [AWS](#)

Management Console したり、組織内のすべてのユーザーを IAM で作成しなくても AWS API オペレーションを呼び出すことができます。SAML 2.0 ベースのフェデレーションの詳細については、IAM ドキュメントの[SAML 2.0 ベースのフェデレーションについて](#)を参照してください。

SCADA

[「監視コントロールとデータ収集」](#)を参照してください。

SCP

[「サービスコントロールポリシー」](#)を参照してください。

シークレット

では AWS Secrets Manager、暗号化された形式で保存するパスワードやユーザー認証情報などの機密情報または制限付き情報。シークレット値とそのメタデータで構成されます。シークレット値は、バイナリ、単一の文字列、または複数の文字列にすることができます。詳細については、[Secrets Manager ドキュメントの「Secrets Manager シークレットの内容」](#)を参照してください。

セキュリティコントロール

脅威アクターによるセキュリティ脆弱性の悪用を防止、検出、軽減するための、技術上または管理上のガードレール。セキュリティコントロールには、[予防的](#)、[検出的](#)、[???応答的](#)、[プロアクティブ](#)の4つの主なタイプがあります。

セキュリティ強化

アタックサーフェスを狭めて攻撃への耐性を高めるプロセス。このプロセスには、不要になったリソースの削除、最小特権を付与するセキュリティのベストプラクティスの実装、設定ファイル内の不要な機能の無効化、といったアクションが含まれています。

Security Information and Event Management (SIEM) システム

セキュリティ情報管理 (SIM) とセキュリティイベント管理 (SEM) のシステムを組み合わせたツールとサービス。SIEM システムは、サーバー、ネットワーク、デバイス、その他ソースからデータを収集、モニタリング、分析して、脅威やセキュリティ違反を検出し、アラートを発信します。

セキュリティレスポンスの自動化

セキュリティイベントに自動的に応答または修正するように設計された、事前定義されプログラムされたアクション。これらの自動化は、セキュリティのベストプラクティスの実装に役立つ[検出的](#)または[応答的](#)な AWS セキュリティコントロールとして機能します。自動レスポンスアク

シヨンの例としては、VPC セキュリティグループの変更、Amazon EC2 インスタンスへのパッチ適用、認証情報のローテーションなどがあります。

サーバー側の暗号化

送信先にあるデータの、それを受け取る AWS のサービス による暗号化。

サービスコントロールポリシー (SCP)

AWS Organizationsの組織内の、すべてのアカウントのアクセス許可を一元的に管理するポリシー。SCP は、管理者がユーザーまたはロールに委任するアクションに、ガードレールを定義したり、アクションの制限を設定したりします。SCP は、許可リストまたは拒否リストとして、許可または禁止するサービスやアクションを指定する際に使用できます。詳細については、AWS Organizations ドキュメントの「[サービスコントロールポリシー](#)」を参照してください。

サービスエンドポイント

のエントリポイントの URL AWS のサービス。ターゲットサービスにプログラムで接続するには、エンドポイントを使用します。詳細については、AWS 全般のリファレンスの「[AWS のサービス エンドポイント](#)」を参照してください。

サービスレベルアグリーメント (SLA)

サービスのアップタイムやパフォーマンスなど、IT チームがお客様に提供すると約束したものを明示した合意書。

サービスレベルインジケータ (SLI)

エラー率、可用性、スループットなど、サービスのパフォーマンス側面の測定。

サービスレベルの目標 (SLO)

サービスレベルのインジケータによって測定される、サービスの状態を表すターゲットメトリクス。

責任共有モデル

クラウドのセキュリティとコンプライアンス AWS について と共有する責任を説明するモデル。AWS はクラウドのセキュリティを担当しますが、お客様はクラウドのセキュリティを担当します。詳細については、[責任共有モデル](#)を参照してください。

SIEM

「[セキュリティ情報とイベント管理システム](#)」を参照してください。

単一障害点 (SPOF)

システムを中断させる可能性のあるアプリケーションの単一の重要なコンポーネントの障害。

SLA

[「サービスレベルアグリーメント」](#)を参照してください。

SLI

[「サービスレベルインジケータ」](#)を参照してください。

SLO

[「サービスレベルの目標」](#)を参照してください。

split-and-seed モデル

モダナイゼーションプロジェクトのスケーリングと加速のためのパターン。新機能と製品リリースが定義されると、コアチームは解放されて新しい製品チームを作成します。これにより、お客様の組織の能力とサービスの拡張、デベロッパーの生産性の向上、迅速なイノベーションのサポートに役立ちます。詳細については、[「」の「アプリケーションをモダナイズするための段階的アプローチ AWS クラウド」](#)を参照してください。

SPOF

[単一障害点](#)を参照してください。

star スキーマ

トランザクションデータまたは測定データを保存するために 1 つの大きなファクトテーブルを使用し、データ属性を保存するために 1 つ以上の小さなディメンションテーブルを使用するデータベース組織構造。この構造は、[データウェアハウス](#)またはビジネスインテリジェンスの目的で使用するよう設計されています。

strangler fig パターン

レガシーシステムが廃止されるまで、システム機能を段階的に書き換えて置き換えることにより、モノリシックシステムをモダナイズするアプローチ。このパターンは、宿主の樹木から根を成長させ、最終的にその宿主を包み込み、宿主に取って代わるイチジクのつるを例えています。そのパターンは、モノリシックシステムを書き換えるときのリスクを管理する方法として [Martin Fowler により提唱されました](#)。このパターンの適用方法の例については、[コンテナと Amazon API Gateway を使用して、従来の Microsoft ASP.NET \(ASMX\) ウェブサービスを段階的にモダナイズ](#)を参照してください。

サブネット

VPC 内の IP アドレスの範囲。サブネットは、1 つのアベイラビリティゾーンに存在する必要があります。

監視統制とデータ収集 (SCADA)

製造では、ハードウェアとソフトウェアを使用して物理アセットと生産オペレーションをモニタリングするシステム。

対称暗号化

データの暗号化と復号に同じキーを使用する暗号化のアルゴリズム。

合成テスト

ユーザーインタラクションをシミュレートして潜在的な問題を検出したり、パフォーマンスをモニタリングしたりする方法でシステムをテストします。[Amazon CloudWatch Synthetics](#) を使用してこれらのテストを作成できます。

T

タグ

AWS リソースを整理するためのメタデータとして機能するキーと値のペア。タグは、リソースの管理、識別、整理、検索、フィルタリングに役立ちます。詳細については、「[AWS リソースのタグ付け](#)」を参照してください。

ターゲット変数

監督された機械学習でお客様が予測しようとしている値。これは、結果変数のことも指します。例えば、製造設定では、ターゲット変数が製品の欠陥である可能性があります。

タスクリスト

ランブックの進行状況を追跡するために使用されるツール。タスクリストには、ランブックの概要と完了する必要がある一般的なタスクのリストが含まれています。各一般的なタスクには、推定所要時間、所有者、進捗状況が含まれています。

テスト環境

[「環境」](#)を参照してください。

トレーニング

お客様の機械学習モデルに学習するデータを提供すること。トレーニングデータには正しい答えが含まれている必要があります。学習アルゴリズムは入力データ属性をターゲット (お客様が予測したい答え) にマッピングするトレーニングデータのパターンを検出します。これらのパター

ンをキャプチャする機械学習モデルを出力します。そして、お客様が機械学習モデルを使用して、ターゲットがわからない新しいデータでターゲットを予測できます。

トランジットゲートウェイ

VPC とオンプレミスネットワークを相互接続するために使用できる、ネットワークの中継ハブ。詳細については、AWS Transit Gateway ドキュメントの「[トランジットゲートウェイとは](#)」を参照してください。

トランクベースのワークフロー

デベロッパーが機能ブランチで機能をローカルにビルドしてテストし、その変更をメインブランチにマージするアプローチ。メインブランチはその後、開発環境、本番前環境、本番環境に合わせて順次構築されます。

信頼されたアクセス

ユーザーに代わって AWS Organizations およびそのアカウントで組織内でタスクを実行するために指定するサービスへのアクセス許可を付与します。信頼されたサービスは、サービスにリンクされたロールを必要とときに各アカウントに作成し、ユーザーに代わって管理タスクを実行します。詳細については、ドキュメントの「[AWS Organizations を他の AWS のサービスで使用する AWS Organizations](#)」を参照してください。

チューニング

機械学習モデルの精度を向上させるために、お客様のトレーニングプロセスの側面を変更する。例えば、お客様が機械学習モデルをトレーニングするには、ラベル付けセットを生成し、ラベルを追加します。これらのステップを、異なる設定で複数回繰り返して、モデルを最適化します。

ツーピザチーム

2 つのピザを食べることができる小さな DevOps チーム。ツーピザチームの規模では、ソフトウェア開発におけるコラボレーションに最適な機会が確保されます。

U

不確実性

予測機械学習モデルの信頼性を損なう可能性がある、不正確、不完全、または未知の情報を指す概念。不確実性には、次の 2 つのタイプがあります。認識論的不確実性は、限られた、不完全なデータによって引き起こされ、弁論的不確実性は、データに固有のノイズとランダム性によって引き起こされます。詳細については、[深層学習システムにおける不確実性の定量化](#) ガイドを参照してください。

未分化なタスク

ヘビーリフティングとも呼ばれ、アプリケーションの作成と運用には必要だが、エンドユーザーに直接的な価値をもたらさなかったり、競争上の優位性をもたらしたりしない作業です。未分化なタスクの例としては、調達、メンテナンス、キャパシティプランニングなどがあります。

上位環境

[「環境」](#)を参照してください。

V

バキューミング

ストレージを再利用してパフォーマンスを向上させるために、増分更新後にクリーンアップを行うデータベースのメンテナンス操作。

バージョンコントロール

リポジトリ内のソースコードへの変更など、変更を追跡するプロセスとツール。

VPC ピアリング

プライベート IP アドレスを使用してトラフィックをルーティングできる、2 つの VPC 間の接続。詳細については、Amazon VPC ドキュメントの「[VPC ピア機能とは](#)」を参照してください。

脆弱性

システムのセキュリティを脅かすソフトウェアまたはハードウェアの欠陥。

W

ウォームキャッシュ

頻繁にアクセスされる最新の関連データを含むバッファキャッシュ。データベースインスタンスはバッファキャッシュから、メインメモリまたはディスクからよりも短い時間で読み取りを行うことができます。

ウォームデータ

アクセス頻度の低いデータ。この種類のデータをクエリする場合、通常は適度に遅いクエリでも問題ありません。

ウィンドウ関数

現在のレコードに関連する行のグループに対して計算を実行する SQL 関数。ウィンドウ関数は、移動平均の計算や、現在の行の相対位置に基づく行の値へのアクセスなどのタスクの処理に役立ちます。

ワークロード

ビジネス価値をもたらすリソースとコード (顧客向けアプリケーションやバックエンドプロセスなど) の総称。

ワークストリーム

特定のタスクセットを担当する移行プロジェクト内の機能グループ。各ワークストリームは独立していますが、プロジェクト内の他のワークストリームをサポートしています。たとえば、ポートフォリオワークストリームは、アプリケーションの優先順位付け、ウェーブ計画、および移行メタデータの収集を担当します。ポートフォリオワークストリームは、これらの設備を移行ワークストリームで実現し、サーバーとアプリケーションを移行します。

WORM

[「書き込み 1 回」](#)を参照し、[多くの](#)を読み取ります。

WQF

[「AWS ワークロード認定フレームワーク」](#)を参照してください。

Write Once, Read Many (WORM)

データを 1 回書き込み、データの削除や変更を防ぐストレージモデル。承認されたユーザーは、必要な回数だけデータを読み取ることができますが、変更することはできません。このデータストレージインフラストラクチャは [イミュータブルな](#) と見なされます。

Z

ゼロデイ 익스プロイト

[ゼロデイ脆弱性](#) を利用する攻撃、通常はマルウェア。

ゼロデイ脆弱性

実稼働システムにおける未解決の欠陥または脆弱性。脅威アクターは、このような脆弱性を利用してシステムを攻撃する可能性があります。開発者は、よく攻撃の結果で脆弱性に気付きます。

ゾンビアプリケーション

平均 CPU およびメモリ使用率が 5% 未満のアプリケーション。移行プロジェクトでは、これらのアプリケーションを廃止するのが一般的です。

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。